



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	わが国最初の「印度哲学史」講義（二）：井上哲次郎の未公刊草稿
Author(s)	今西，順吉
Citation	北海道大學文學部紀要，39(2)，1-77
Issue Date	1991-02-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33568
Type	departmental bulletin paper
File Information	39(2)_PR1-77.pdf



わが国最初の「印度哲学史」講義 (二)

——井上哲次郎の未公刊草稿——

目次

はじめに

第一篇 本文

凡例

第八章 尼夜耶学派

第九章 衛世師学派即チ勝論派 (以上前号に掲載)

第十四章 各種ノ哲学派

第十五章 印度哲学ノ総評

〔付〕 夏目漱石の聴講ノート断片 (以上本号に掲載)

第二篇 解説と注記

北大文学部紀要

今
西
順
吉

印度哲学史 第七

各種ノ哲学派

〔哲学派ノ分類〕

各哲学派ノ主義

〔印度哲学ノ総評〕

第十四章 各種ノ哲学派

第一項 叙論[×]〔哲学派ノ分類〕[×]

古来哲学思想ニ富メル人民世界ニ三箇アリ、西洋ニアリテハ希臘及ビ獨逸ノ人民、東洋ニアリテハ印度ノ人民、是レナリ、印度人民ノ特質タル、頗ル經驗的事実ニ疎遠ナルノ弊アリト雖モ、反リテ深邃ナル哲学的思辨ニ長ゼリ、已ニ紀元前六七世紀ニ当リ、吠陀經ノ解釈トシテ優波尼沙土Upanishadト称スル哲学ノ種類百四十五種アリ、実ニ印度哲学ノ源泉タリ、優波尼沙土ニ紹イテ起レル哲学派ノ數、極メテ繁多ナレト、歴史ノ徵スベキモノナキガ故ニ其果シ

テ幾多ナルヲ確定スルヲ能ハズ、今左ニ逐一諸説ヲ列舉セン、

第一、九十六派トスルノ説……華嚴經十廻向品(八十華嚴卷廿六第十五葉右)ニ云ク「願一切衆生、得三如来幢、摧三滅一切九十六種

外道邪見」云云ト、又大智度論卷廿二(第廿九葉右)ニ云ク「世間諸法実相寶山、九十六種異道皆不レ能レ得」ト、全卷廿七

(二十右)ニモ「九十六種外一時和合、議言、我等亦皆是一切智人」トアリ、其外九十六種ノ外道ノ「修行本起經卷上

六太子瑞應經卷下七普曜經卷五二雜譬喻經卷十六十六及其他諸書ニ散見ス、是等ハ皆佛教以外一切ノ哲学派ヲ九十六種ト

スルモノナリ、法雲ノ譚詠名義集外道篇(卷二第廿八葉右)ニ云ク「垂裕云、準九十六外道經於レ中一道是正、即佛也、九十

五、皆邪」ト、九十六外道經ト云ヘル書ハ蓋シ各哲学派ノ事ヲ叙述セシモノナラン、惜クハ傳ハラズ、姑ク垂裕ノ言

ニ從ヘバ、外道ノ數ハ九十五ニシテ佛教ヲ併セテ九十六ナリ、然レモ佛教ヲモ外道ト稱スルヲ頗ル疑ナキニアラザル

ナリ、

第二、九十五派トスルノ説……涅槃經衆問品(會疏卷十第十五葉左)ニ云ク「世尊常説、一切外学九十五種、皆趣ニ惡道」ト、

又現病品(全上第卅葉右)ニ云ク「當下為三外道九十五種之所ニ輕慢、生中無常想」ト、其他起信論(義記下ノ末第卅一葉右)ニモ「不下為二九

十五種外道ニ鬼神之所ニ惑乱」ト云ヘリ、是等ハ皆佛教以外ノ哲学派ヲ九十五派トスルモノナリ、

第三、六派トスルノ説……西洋ノ学者ハ婆羅門ノ哲学派ヲ六種ニ分ツヲ通例トス、今六派ト其祖師トヲ挙ゲン(ハ左

ノ如シ)

名稱

(一) 尼夜耶派 (即チ因明派) …… 喬答摩

- (一) 衛世師派 (即チ勝論派) ……迦那陀
 - (二) 僧佉派 (即チ數論派) ……迦比羅
 - (三) 瑜伽派 (即チ觀行派) ……波騰闍梨
 - (四) 弭曼薩派 (即チ声論派) ……闍伊弭尼
 - (五) 吠檀達派 (即チ吠陀派) ……婆達羅耶那 (一名毘耶娑)
- 之レヲ六哲学派 *Shad Darsanas* ト称ス、是等ハ印度哲学派中特ニ重要ナルモノナルガ故ニ西洋ノ学者ハ撰出シテ以テ六哲学派トセルナラン、然レハ一切ノ印度哲学ハ此六哲学派ニ盡キタリトスルニアラザルハ尚ホ研婆迦 *Chārvakas* 闍伊那 *Jaina* 婆訶斯波多 *Bāthaspatyas* 等ノ哲学派アルヲ認識セルヲ以テ知ルベキナリ、慈恩モ亦大類ノ外道、別スルニ六計アリト云ヒテ佛教以外ノ哲学派ヲ六種ニ区分セリ、然レハ彼レハ數論、勝論、明論、声顯論、声生論、順世論ヲ撰出セリ、其中明論ハ声ノ常住ヲ主張スルモノト云ヘバ蓋シ吠檀達ナラン、順世論ハ即チ研婆迦ヲ謂フナリ、第四、三十派トスルノ説……是レ大日經十住心品ニ見ユル所ニシテ、其主義ノ大意ハ唐ノ沙門一行ノ義釋卷二(七乃至)ニ見ユ、義釈ハ一行ガ親シク善無畏 *Subhakarasiṃha* ニ質シテ著作セル所ニ係ル、今左ニ三十派ヲ舉ゲン、
- 第一、時論……………計時外道ヲ謂フ、
 - 第二、地等變化論……地論師、服水論師、火論師、風仙論師及ビ口力論師ヲ謂フ、
 - 第三、瑜伽我論……………瑜伽派ヲ謂フ、我ハ蓋シ衍文ナラン、
 - 第四、建立淨論……………一切法ヲ建立シテ此レニ依リテ修行スルヲ淨トナスモノ、其觀念或ハ唯心論ニ類スルモノナルカ、

第五、不建立無淨論……建立ハ究竟ノ法ニアラズ、若シ建立スルヲナケレバ無為ナリ、是レヲ真我ト名ヅク、彼ノ所修ノ淨ヲ離ル、ガ故ニ無淨ト云フナリ、

第六、自在天論……濕婆派ヲ謂フ、

第七、流出論……現象ハ造化ニヨリテ成ルトスルモノ、然レハ之レヲ流出ト云フヲ觀レバ其觀念寧ロ分出論 Emanationslehre ニ類スルモノナルカ、

第八、時論……第一ノ時論ト少シ異ナリト云ヘハ、如何ナル點ニ於テ異ナルカ、詳ナラズ、

第九、尊貴論……尊貴ハ那羅延天 *Nārāyaṇa* ^{梵天(婆羅賀若天)} ^{ハ毘濕奴ノ異名} ヲ謂フ、此派オモヘラク、那羅延天ハ常住不動

ナレハ、輔助ノモノアリテ萬物ヲ造成ス、譬ヘバ猶ホ有司ノ人主ヲ扶翼スルガ如シ、那羅延天ハ一切ノ地水火風空ノ處ニ遍ク、森羅萬象ハ畢竟那羅延天ナリ、

第十、自然論……無因論派ヲ謂フ、

第十一、内我論……身中心ヲ離レテ別ニ精神アリテ此身ヲ使令シ、百般ノ事業ヲナストスルモノ、蓋シ勝論ノ如キモノヲ謂フナラン、

第十二、人量論……精神ノ大サハ人身ノ大サニ同ジク、身小ナレバ精神モ亦小ナリ、身大ナレバ精神モ亦大ナリトスルモノ、蓋シ闍伊那派ヲ謂フナラン、

第十三、遍嚴論……精神能ク萬物ヲ造成シ、世間ノ尊勝遍嚴ノ事ハ精神ノ然ラシムル所トスルモノナリ、

第十四、壽者論……四大及ビ草木等皆壽命アリトスルモノ、換言スレバ萬物均シク生命ヲ有シ、覺醒ト生死ヲ免レズトスルモノ、即チ闍伊那派ノ如キ、萬物有生論 *Hylözoismus* 若シクハ萬物有情論 *Hylöpathismus* ヲ謂フ、

第十五、補特迦羅論……生類ハ屢々苦果ヲ取リテ天、人、畜生等ノ諸趣ニ往來ストスルモノナリ、慧苑ノ華嚴音義卷二(七)ニ云ク「補伽羅、正云ニ補特伽羅、(Pudgala)此曰ニ數取趣、謂ニ造集不_レ息、數々取ニ苦果一也」ト、補特伽羅ハ數取趣ト訳ス、數取趣ハ頻リニ業ヲ作リテ諸趣ニ流轉スルヲ謂フ、一切ノ有情ハ數取趣タルガ故ニ或ハ之レヲ有情トモ云フ、屢々諸趣ニ流轉スルモ、我体ハ常住不變ナリト主張ス、即チ精神不滅ノ說ナリ、此ニ補特迦羅ト云フハ闍伊那派ニ於ケル如ク物質ノ義ニアラズシテ輪廻ヲ免レザル有情ヲ謂フナリ、

第十六、識論……………意論^x〔識〕ヲ以テ我トナシ、意識ハ遍一切處ニシテ地水火風空ノ五大ニモ遍滿ストスルモノナリ、

第十七、阿賴耶論……阿賴耶 *alaya* (本ト住居ノ「ニシテ」^{執持含藏ノ義アリ}) ト称スル一箇ノ官能アリ、此身ヲ維持シテ、作用ヲナシ、萬般ノ寫象ヲ含藏ス、之レヲ攝スレバ所有ナリ、之レヲ舒スレバ世界ニ滿ツ、延縮自在ニシテ常住不滅ナリトスルモノナリ、佛教ノ八識 *achia vijñāna* ノ第八ノ阿賴耶ト同ジカラズ、

第十八、知者論……………身中ニ知者アリテ能ク苦樂等ノ事ヲ知ルトスルモノ、蓋シ知者トハ苦樂等ヲ直覺スル精神ヲ謂フナラン、

第十九、見者論……………見者ハ是レ眞我(即チ精神)ナリトスルモノ、前ノ知者論ト大同小異、但々彼レハ能知ニ就イテ之レヲ云ヒ、此レハ能見ニ就イテ之レヲ云フノ差アルノミ、

第二十、能執論……………身中ニ識心ヲ離レテ別ニ能執者(即チ原動者)アリ、是レヲ眞我(即チ精神)トナス、能ク身口ヲ運動シテ百般ノ事業ヲナストスルモノナリ、

第廿一、所執論……………前者ニ反シ、識心ヲ以テ能執(即チ原動)トシ、眞我ヲ以テ所執(即チ被動)トシ、眞我ハ

遍一切處ナリトスルモノナリ、

第廿二、内知論……内面的知識ヲ我トナスモノ、即チ身中自ラ内証者アリ、是レヲ眞我トナスト云フモノナリ、

第廿三、外知論……前者ニ反對シテ外面的知識ヲ我トナスモノ、即チ能ク客觀世界ヲ知ルモノハ眞我ナリト云フモノナリ、前者ハ先天論者ノ如ク、後者ハ後天論者ノ如キ正反對ノ位置ヲ有セリ、

第廿四、社怛梵論……知者論ト大ニ同ジト云フ、社怛梵ノ義末タ詳ナラズ、

第廿五、摩奴闍論……人ハ人ヨリ生ズトスルモノ、摩奴闍 *manushya* ハ人ノ義ナリ、

第廿六、摩納婆論……摩納婆 *manava* ハ訳シテ之レヲ勝我ト云フ、蓋シ我ハ身心中ニ於テ最モ勝妙タリ、故ニ此ノ如ク名ヅク心中ニ於テ一寸許サルベク、其微細ル芥子ノ如クシテ清淨ナルガ故ニ名ケテ淨色トモ云フ、初メ身ヲ受クルモ最モ前ニアリテ之レヲ受ク、譬ヘバ偶像ヲ造ルモ、先ヅ像骨ヲ造リ、後、次等ニ皮肉等ヲ造リテ之レヲ粧飾スルガ如シ、

第廿七、常定生論……我ハ是レ常住ニシテ破壊スベカラズトスルモノ、之レヲ常定生ト云フハ我ハ自然ニ生シテ常ニ存シ、更ニ又生ズルヲナキヲ謂フ、

第廿八、聲顯論……弭曼薩派ノ一派

第廿九、聲生論……是レ亦弭曼薩派ノ一派

第三十、非聲論……弭曼薩派ノ「声ハ常住ナリ」ノ説ニ反對セル尼夜耶、僧佉、衛世師等ノ諸派ヲ謂フ、

〔是レ蓋シ佛教以外ノ各哲学派ヲ分類スルモノナルベケレト、其分類法ハ正確ナルモノニアラ〕ズ、地論、服水論、火論、風仙論、口力論ノ五種ヲ一派トシ、又尼夜耶、僧佉、衛世師等ヲ合一シテ非聲論ノ一派トスルガ如キ、声顯声

生ノ二派ハ弭曼薩派中ノ支派ニ過ギザルニ、分チテ之レヲ二派トシテ非声論派ト對立セシムルガ如キ、人量論壽者論等幾多ノ論ハ共ニ是レ闍伊那派ノ唱道スル所ニシテ分チテ數派トナスベカラザルガ如キ、皆其當ヲ得タルモノニアラズ、若シ是レ單ニ佛教以外ノ各哲学派ガ唱道スル所ノ理論ノ分類ニシテ各哲学派其レ自身ノ分類ニアラズトセバ或ハ怨スベキモノアリト雖モ、亦決シテ各哲学派ガ唱道スル重要ナル理論ヲ列挙シタルモノニモアラザルナリ、

第五、十六派トスルノ説……瑜伽論卷六及ビ卷七、頭揚論卷九及ビ卷十、毗婆娑論卷十一及ビ卷十二〔大乘義林章卷一〕ニ佛教以外ノ哲学派ヲ十六種ニ分類セリ、今左ニ之レヲ挙ゲン、

第一、因中有果論……結果ハ已ニ原因ノ中ニ含有サレ居ルトスル一派、即チ先天派ヲ謂フ、此派ハ數論派ニヨリテ代表サル、瑜伽論卷六(左)ニ云ク「謂雨衆外道、作ニ如是計ニ」ト、雨衆外道ハ即チ數論派ノナリ、慈恩ノ大乘

義林章卷一本(十六)ニ云ク「雨衆外道執、諸法因中常有二果性ニ、如ニ禾以レ穀為レ因、欲レ求レ禾時、唯種ニ於穀ニ、

禾定從レ穀生、不ニ從レ麥生ニ、故知穀因中先已有二禾性ニ、不レ爾應下一切從ニ一切法ニ生上」ト、尚ホ因中有果論ハ金

七十論(備考會本廿五左)ニ詳ナリ、

第二、從緣顯了論……一切ノ現象ハ本來實在セルモノニテ唯助因ニヨリテ發表スレト、助因ノ生ズル所ニアラズトスルモノ、即チ數論派及ビ聲顯派ヲ謂フ、

第三、去來實在論……過去モ未來モ現在ノ如ク、總ベテ是レ實在ニテ幻影ニアラズトスルモノ、即チ勝論派及ビ時論派ノ如キヲ謂フ、

第四、計我實在論……我(即チ精神)ヲ實在トスルモノ、義林章ニハ獸主等ノ外道之レヲ主張セリトス、蓋シ佛教及ビ婆羅門教ノ無我論ニ反シテ個人精神ノ實在ヲ唱道セル一派ナラン、

第五、諸法皆常論……我及ビ世間ヲ皆実常住トスルモノ、換言スレバ主觀客觀ノ兩者共ニ永遠不滅ナリトスルモノ、瑜伽論ニハ伊師迦之レヲ唱道スト云フ、

第六、諸因宿作論……現在受クル所ノ一切ノ苦痛ハ皆過去ノ罪業ガ原因トナリテ起レリ、若シ嚴重ニ戒苦セバ新ニ罪業ヲ生ズルノ原因ナク、舊來ノ罪業ハ戒苦ニヨリテ消滅ストスルモノ、是レハ闍伊那派ヲ謂フ、

第七、自在等因論……世間[×]「界」一切不平等ノ現象ハ大自在天（即チ濕婆）若クハ大梵（即チ婆羅賀磨）若クハ丈夫ノ變化スル所、若クハ又時方空我等原因トナリテ變化スル所ト云フ一派ナリ、

第八、害為正法論……祭祀咒術ヲ先トシ、數多ノ生命ヲ害シ、祭ルモノ、害セラル、モノ、及ビ同伴ノモノ皆天生ズルヲ得トスル一派ナリ、

第九、邊無邊等論……世界ノ有邊無邊ヲ考察スルモノ、此派ニ四種ノ別アリ、第一、世界ヲ有邊トスルモノ、第二、世界ヲ無邊トスルモノ、第三、世界ヲ亦有邊亦無邊トスルモノ、第四、世界ヲ非有邊非無邊トスルモノ、是レナリ、

第十、不死矯乱論……常住不死ノ天ヲ奉崇シ、眞理ヲ覺リ、煩惱ナシト唱道シ、若シ之レヲ詰問スルキハ餘事ニ托シ、矯乱以テ之レヲ避クル一派ナリ、此派ニ四種ノ別アリ、第一、善惡ヲ覺知シテ、未ダ應報ヲ開悟セザルモノ、第二、論証ノ點ニ就イテ過度ノ伴執ヲナスモノ、第三、善惡ヲ覺知シ、應報ヲ開悟スト雖モ、未ダ善惡ニ於テ決定セザルモノ、第四、羸劣愚鈍ニシテ正答ヲナスコ能ハザルモノ、是レナリ、

第十一、諸法無因論……我及ビ世間一切ノモノハ原因ナク自然ニシテ生ズトスルモノ、即チ自存論 *Self-existence* ヲ主張スルモノ、或ハ又之レヲ無因見論ト云フ、是レ大日經ノイハユル自然論、外道小乘涅槃論ノイハユル無因論

師ト同ジ、此派ニ又二種ノ別アリ、第一ハ無想天ヨリ没シ来リテ此世界ニ生レ、其前生ヲ記憶セザルガ故ニ無因トスルモノ、第二ハ世界ノ諸現象ハ忽然トシテ生滅シ、前後連絡ナキガ如クナル故ニ無因トスルモノ、是レナリ、第十二、七事断滅論……我身ハ四大ノ造成スル所ニシテ痛苦アレ、死後ハ断滅シテ有ルヲナク、七事共ニ断滅ストスルモノ、其七事ト云フハ欲界 *Kāmadhātu* ノ人天ヲ二トナシ、次ギニ色界 *Rūpadhātu* ノ諸天ヲ合シテ一トナシ、次ギニ無色界 *Arūpadhātu* ノ四空ヲ四トナシ、合シテ七事ナリ、四空ハ第一ニ空無邊處 *Akāśānantayatana* 第二ニ、誠[×](識) 無邊處 *Vijñānānantāyatana* 第三ニ無所有處 *Ākincanyayatana* 第四ニ非想非非想處 *Naivasa-mjñānasamjñāyatana* 是レナリ、此派ヲ或ハ單ニ断見論トモ云フ、第十三、因果皆空論……善人ニ惡果ヲ来タシ、惡人ニシテ善果ヲ来タスヲアルガ故ニ元來因果ノ連絡アルニアラズトスルモノ、或ハ單ニ空見論トモ稱ス、瑜伽論ニ據レバ此派ハ六無ヲ主張ス、第一、施與愛養祠祀ナシ、是レ必ズシモ相当ノ結果ヲ来タスモノニアラズ、例ヘバ一生布施ヲ行ヒ、間断アルヲナキモ、命終ノ後反リテ下賤ノ家ニ生レテ貧窮ナルヲアルガ如シ、故ニ一切之レヲ否定ス、第二、妙行惡行及ビ果異熟ナシ、是レ善行ハ善、惡行ハ惡ト云フガ如ク、必ズシモ相違ノ結果ヲ来タスモノニアラズ、故ニ之レヲ否定ス、第三、彼世間[×]〔界〕ナク、此世間[×]〔界〕ナシ、一ツノ刹帝利ニシテ命終ノ後、婆羅門、吠舍、戌陀羅ノ中ニ生レ、或ハ婆羅門ニシテ命終ノ後、刹帝利、吠舍、戌陀羅ノ中ニ生レ、吠舍戌陀羅等亦此ノ如クナルガ故ニ此世間[×]〔界〕ノ刹帝利等ト云フベキ一定ノ種姓ナシ、皆[×]〔此〕世間[×]〔界〕ノ刹帝利等ノ中ヨリ来ルガ故ニ、亦彼世間[×]〔界〕ノ刹帝利等ト云フベキ一定ノ種姓ナシ、皆[×]〔此〕世間[×]〔界〕ノ刹帝利等ノ中ヨリ去ルガ故ニ、是故ニ之レヲ否定ス、第四、母ナシ、父ナシ、母タルモノ命終ノ後、生レテ女トナリ、女亦命終ノ後、還リテ其母トナリ、父終ハリテ子トナリ、子還リテ父トナルガ故ニ世間畢

竟父ナシ母ナシトス、第五、化生有情ナシ、人命終ノ後、或ハ無想天ニ生レ、或ハ無色界ニ生レ、或ハ涅槃ニ入リ、彼ノ生處ヲ求ムルニ、見ルヲ得ベカラザルガ故ニ、化生衆生アルコナシトス、第六、眞ノ阿羅漢ナシ、自ラ阿羅漢ナリト思惟スルモノモ命終ノ時ニ臨ンデ生相ヲ見ルガ故ニ世間必ズ眞ノ阿羅漢ナシトス、

第十四、妄計最勝論……婆羅門ハ刹帝利等ノ種姓ヨリ優等ナリトスルモノ、之レヲ妄計ト云フハ佛教徒ノ地位ヨリ稱スル所ナリ、最勝論ハ總ベテ婆羅門教徒タルモノ、唱道スル所ナルガ故ニ之レヲ婆羅門教ト同一視スベク、婆羅門教中ノ一哲學派ト見做スベキモノニアラザルナリ、

第十五、妄計清淨論……若シ我レ解脱スレバ清淨ナルヲ得トスルモノ、此派中ニ又四種アリ、第一ハ、一タビ解脱スレバ心、自在ヲ得テ、諸天ノ五欲ヲ享受シ、嬉戲娛樂スルヲ現法涅槃第一ノ清淨トナスモノ、第二ハ一タビ不喜ヲ離ルレバ第一及至第四ノ靜慮（即チ第一禪乃至第四禪）ニ住スルヲ得、是レヲ現法涅槃第一清淨トナスモノ、此現法涅槃中四種ノ別アルガ故ニ第一ト合シテ五現法涅槃ト云フ、〔即チ楞嚴經ノ所謂五現涅槃論、是レナリ〕第三ハ孫陀利迦、婆湖陀、伽耶、薩伐底、殑伽等ノ如キ神聖ナル河中ニ入りテ支体ヲ沐浴スレバ罪業ヲ除滅スルヲ得、是レヲ第一清淨トスルモノ、第四、狗戒牛戒油墨戒露形戒灰戒自苦戒糞穢戒等ヲ持シテ是レヲ清淨トスルモノ、是レナリ、

第十六、妄計吉祥論……日月星辰等ヲ祭祀スレバ自身ノ富樂ヲ得トスル一派ナリ、

此分類モ亦前ノ大日經ノ同ジク学派ニ就イテ為シ、ト云フヨリ寧ロ理論ニ就イテ為シ、モノニ似タリ、從緣顯了論中ニ數論及ビ声顯ノ二派ヲ含有シ、去來実有〔論〕中ニ勝論及ビ時論ノ二派ヲ含有スルガ如キ、忘計最勝論ハ一切ノ婆羅門ニ共通ナルガ如ク、此分類法ハ所謂縱横区分法 Cross division ニ過ギズ、慈恩ガ義林章卷一（^{十六}）ニ「外道

わが国最初の「印度哲学史」講義 (二)

雖有ニ九十五種一、大意莫^い過^へ三十六異論」ト云フヲ以テ之レヲ觀レバ、十六派ハ九十五種ノ哲学派ヲ其共通ノ理論ニヨリテ分類シタルモノト見ナ、摩陀婆 *Madhava* モ亦一切ノ印度哲学派ヲ十六種ニ分類セリ、氏ハ十四紀ノ人ニシテ梨俱吠陀ノ註解者タル婆耶那 *Sāyana* ノ兄ナリ、(或ハ云フ、婆耶那ト同一人ナリト) 氏ノ分類ニ係ル十六派ハ上ニ列挙スル所ト同ジカラズ、今左ニ其名称ヲ挙ゲン、

- 第一、旃婆迦派 *Chārvāka* 即チ順世外道ナリ、
- 第二、憍達派 *Baudha* 即チ佛教派ナリ、
- 第三、阿羅漢派 *Ārhatta* 即チ闍伊那派ナリ、
- 第四、藍摩奴闍派 *Rāmānuja* 蘿^x〔藍〕摩奴闍ト云ヘル人ノ一派ナリ、〔ニシテ、毗濕奴崇拜派ニ属ス、〕
- 第五、富樓那般若派 *Pūrṇa-prajña* 〔阿難^x底利達^x *Anandāśrītha*ニ属ス〕富樓那般若(即チ満智)ト云ヘル人ノ一派ナリ〔ニシテ毗濕^x崇拜派ニ属ス〕
- 第六、波輪鉢多派 *Pāśupata* 濕婆崇拜ノ一派ニシテ蓋シ那拘利奢 *Nakulīśa* ノ創唱スル所ニ係ル、所謂塗灰外道、是レナリ、
- 第七、晒婆派 *Saiva* 即チ濕婆崇拜〔派〕ナリ、大日經ニ所謂自在天論ト同ジ、
- 第八、波羅底耶毗闍那派 *Pratyabhijña* 即チ〔復〕認識派ナリ、〔濕婆崇拜派ニ属ス、〕
- 第九、羅斯濕伐羅派 *Rasesvara* 即チ水銀派ナリ、〔濕婆崇拜派ニ属ス、〕
- 第十、溫露迦派 *Aulākya* 即チ論勝派ナリ、
- 第十一、阿差波陀派 *Akṣhapāda* 即チ尼夜耶派ナリ、

第十二、闍伊弭尼派 Jaiminiya……………即チ弭曼薩派ナリ、

第十三、波爾尼派 Paṇinīya……………波爾尼ト云ヘル人ノ一派ニシテ亦声論派ニ属ス、

第十四、僧佉派 Sāṃkhya……………即チ數論派ナリ、

第十五、波騰闍羅派 Pātanjāla……………即チ瑜伽派ナリ、

第十六、吠檀達派 Vedānta……………即チ吠陀派ナリ、

摩陀婆ハ哲学纂論 Sarva-darśana-saṃgraha (コウエル、ガウフ 二氏ノ英訳アリ、) ヲ著ハシ、右十六派ノ要領ヲ叙述セリ、然レモ独リ吠檀

達派ハ別ニ著作スル所アルノ故ヲ以テ唯ミ名称ノミヲ存セリ、

第六、十三派トスルノ説……………達羅毗達国ノ達磨波羅 Dharmapāla (訳シテ護 法ト云フ) ノ作ニ係ル成唯識論卷一ニ十三種ノ外道

ヲ挙ゲテ之レヲ駁撃セリ、其名称ハ左ノ如シ、

第一、數論

第二、勝論

第三、大自在天論……………即チ濕婆崇拜派ナリ、

第四、大梵天論……………即チ吠檀達派ナリ、

第五、時論

第六、方論

第七、本際論……………外道小乘涅槃論ニ所謂本生安荼^x〔荼〕論師ノヲナリ、

第八、自然論

第九、虚空論……………即チロ力論師ナリ、

第十、我論……………即チ宿作論師ナリ、

第十一、声生論

第十二、声顯論

第十三、順世論

此レニヨリテ之レヲ觀レバ達磨波羅ハ曾テ尼夜耶、瑜伽等ノ諸派ヲ顧慮セザルニ似タリ、

第七、二十派トスルノ説……………菩提流支 Bodhiruchi ノ訳ニ係ル提婆(龍樹ノ弟子)ノ外乘外小乘涅槃論ニハ佛教以來外ノ

哲学派二十派×××ヲ其涅槃説ニヨリテ二十派ニ分類セリ、此分類ハ單ニ涅槃ノミニ就イテ為スモノナルガ故ニ頗ル一方ニ偏スルガ如クナレト、印度ノ哲学派ハ大抵皆涅槃ヲ以テ收局ノ目的トスルヲ以テ此分類ハアラユル當時ノ哲学派ニ×「ヲ」包容スルモノト見做スヲ得ベキナリ、二十派ハ左ノ如シ、

第一、小乘外道論師……………命終ノ時、燈火ノ滅スルガ如キヲ涅槃トナス、是レ蓋シ佛教ノ小乘派ヲ指スナラン、

第二、方論師……………一切ノ物ハ方×××ニ×「ヨリ」生ジ、還タ方ニ滅×××「方ニ還没」ス、之レヲ涅槃トナス、

第三、風仙論師……………一切ノ物ハ風×ニ×「ヨリ」生ジ、還タ風ニ滅×××「風ニ還没」ス、之レヲ涅槃トナス、

第四、韋陀論師……………一切ノ物ハ梵天ヨリ生ジ、一切ノ大地ハ福德ヲ修ムルノ戒場、若シ梵天ヲ供養セバ彼處ニ

生ズルヲ得、之レヲ涅槃トナス、

第五、伊餘那論師……………伊餘那 Isana (即チ伊舍那天ニシテ濕婆ノ異名ナリ、)ハ其形ハ見ルベカラザルモ、遍一切處ニシテ能ク一切萬物ヲ生ズ、之レヲ涅槃トナス、

第六、倮形外道論師……分別シテ種々ノ異相ヲ見ルヲ涅槃トス、是レ即チ闍伊那派ノ尼犍子ナリ、

第七、毗世師論師……萬物ハ父母ノ極微ノ和合ニヨリテ成ル、和合ナキモノハ離散ス、離散ハ即チ是レ涅槃ナリトス、

第八、苦行論師……身盡クレバ福德モ亦盡ク、之レヲ涅槃トス、其說ノ差ミ諸国〔因〕宿作論ニ似タルヲ觀レバ或ハ闍伊那派ノ如キモノヲ謂フナラン、

第九、女人眷屬論師……摩醯首羅 Mahēśvara 八個ノ女人ヲ造ル、一ヲ阿提儼ト名ヅケ、二ヲ提儼ト名ヅケ、三ヲ蘇羅婆ト名ヅケ、四ヲ毗那多ト名ヅケ、五ヲ迦毗羅ト名ヅケ、六ヲ摩少兔〔兔〕ト名ヅケ、七ヲ伊羅ト名ヅケ、八ヲ歌頭ト名ヅク、阿提儼ハ諸天ヲ生ミ、提儼ハ阿修羅ヲ生ミ、蘇羅婆ハ諸龍ヲ生ミ、毗那多ハ諸鳥ヲ生ミ、迦毗羅ハ四足ヲ生ミ、摩少兔〔兔〕ハ人ヲ生ミ、伊羅ハ一切ノ穀子ヲ生ミ、歌頭ハ一切ノ蛇蝎蚊蠅蚤蚰蜒百足等ヲ生ム、此ノ如ク認識スルヲ涅槃トナス、

第十、行苦行論師……罪福盡クレバ德亦盡ク、之レヲ涅槃トナス、其說第八ノ苦行論師ト大同小異ナリ、

第十一、淨眼論師……煩惱盡クルガ故ニ智識ニヨルヲ涅槃トナス、

第十二、摩陀羅論師……一切ノ物ハ那羅延 Nārāyaṇa ヨリ起リ、此處ニ生ジテ還タ彼處ニ没ス、之レヲ涅槃トナス、摩陀羅ノ義詳ナラズ、

第十三、尼犍子論師……初メ一男一女ヲ生ズ、彼レ相和合シテ一切ノ有命〔生〕無命〔生〕等ノモノヲ生ズ、後、還タ離散シテ彼處ニ没スルヲ涅槃トナス、

第十四、僧伽論師……二十五諦ヲ曉得シ、萬物ハ自性ヨリ生ジ、還タ自性ニ入ルヲ知リ、能ク一切ノ生死ヲ離ル

ルヲ涅槃トナス、

第十五、摩醯首羅論師……世界ノアラユル生物非生物皆摩醯首羅ヨリ生ズ、摩醯首羅ノ身ハ虚空ハ頭、地ハ身、水ハ尿、山ハ糞、一切ノ衆生ハ腹中ノ蟲、風ハ命、火ハ燄、罪福ハ業、此八種ノモノハ摩醯首羅ノ身ヲ成ス、摩醯首羅ハ一切生滅ノ因ニシテ一切ハ此レヨリ生ジ、還タ此レヨリ滅ス、之レヲ涅槃トナス、此派ハ即チ濕婆崇拜派ニシテ大日經ニ所謂自在天論ト同ジ、

第十六、無因論師……萬物ハ自然ニシテ有リ、原因アリテ生ズニアラズ、之レヲ涅槃トナス、

第十七、時論師……一切ノ物ハ時ニ^x〔ヨリ〕生ジ、時ニ滅ス、之レヲ涅槃トナス、

第十八、服水論師……一切ノ物ハ水ニ^x〔ヨリ〕生ジ、水ニ滅ス、之レヲ涅槃トナス、

第十九、口力論師……一切ノ物ハ虚空ヨリ生ジテ還タ^x虚空ニ〔還〕没ス、之レヲ涅槃トナス、

第二十、本生安荼論師……萬物ハ安荼 Andā (卵^子ノ義) ヨリ生ジ、還タ^x散ジテ彼處ニ〔還〕没ス、之レヲ涅槃トス、本生

安荼 Andāṭaka ハ元來卵子ヨリ生ジタルノ義ナリ、

第八、四派トスルノ説……菩提流支ノ訳ニ係ル提婆ノ外道小乘四宗論ニハ單ニ四派ノ外道ヲ挙ゲテ之レヲ論ゼリ、其四派ハ

第一、僧伽論師……一切法ハ一ナリト説クモノ、

第二、毗世師論師……一切法ハ異ナリト説クモノ、

第三、尼健^x〔乾〕子論師……一切法ハ亦一亦異ナリト説クモノ、

第四、若提子論師……一切法ハ不一不異ナリト説クモノ、

第九、六派トスルノ説……註維摩經卷三(四)ニ外道六師ヲ挙グ、法雲ノ名義集六師篇亦六師ヲ載ス、輔行□□ニ云

ク「六師元祖、是迦毗羅支流分異、遂為二六宗」ト、然レヒ六師ノ唱道スル所ヲ觀ルニ、數論ト同ジカラザル而已ナラズ、具中闍伊那派ノ尼犍子ヲモ算入スルガ故ニ其數論流ノ支流タラザルヲ明カナリ、六師ハ左ノ如シ、

第一、富蘭那迦葉 *Purana Kāśyapa*……一切ノ法ハ無所有ナルヲ虚空ノ如クニシテ生滅セズトシ、君臣父子忠孝ノ道ノ如キハ總ベテ之レヲ否定スルモノ或ハ之レヲ色空外道ト云フ、是色ヲ以テ欲ノ有ヲ破シ、空ヲ以テ色ノ有ヲ破シ、空ヲ至極ト謂フガ故ナリ、

第二、末伽梨拘睺梨 *Maskarin Kūsali*…〔*Kūsali*ハ佛教小史ニ *Gośali*ニ作レリ(四十頁)〕、衆生ノ苦樂ハ行為ニヨリテ得ルニアラズ、自然ニ出ヅル而已トスルモノ、蓋シ因果皆空論ノ類ナラン、

第三、刪闍夜毗羅胝 *Sanjaya Vairati*…久シク生死ヲ經、弥々劫數ヲ歷レバ菩盡キテ自ラ得、故ニ道ハ求ムルヲ須ヒズ、猶ホ縷丸ヲ高山ニ轉ジ、縷盡キテ自ラ止ムガゴトク、何ゾ求ムルヲ要センヤト主張スルモノナリ、〔珊闍耶外道ノ事、西域記卷九(廿)及ビ(廿一)ニ見ユ〕

第四、阿耆多翅舍欽婆羅 *Ajita Kesakambali*…身、敝衣ヲ著ケ、自ラ髪ヲ拔キ、煙ヲ鼻ニ熏ジ、五熱身ヲ炙ブル等、苦行ヲ以テ道トナシ、謂ク、今身併セテ苦ヲ受クレバ後身常ニ樂ムナリト、蓋シ瑜伽派ノ類ナラン、

第五、迦羅鳩駄迦旃延 *Kakuda Kātyāyana*…物ニ應ジテ見ヲ起シ、若シ人問ヒテ有リヤト言ハム答ヘテ有リト言ヒ、若シ問ヒテ無キヤト言ハム、答ヘテ無シト言ヒ、語法ハ亦相アリ亦相ナシトスルモノ、阿蘭〔闍〕婆吠陀ノ優波尼沙土ニハ之レヲ *Kabandhin Kātyāyana*ト称セリ、

第六、尼犍陀若提子 *Nirgrantha Jñātiputra*…罪福苦樂ハ盡ク前世ニ由ル、必ズ当ニ之レヲ受クベシ、今道ヲ行ク

ト雖モ、能ク之レヲ断滅スルヲ得ズトスルモノ、即チ尼犍子派ノ若提子ヲ謂フナリ、此六師ハ釈迦ノ時ニアリテ釈迦ニ反對シタル婆羅門ノ哲学派ナリト云フ、僧肇曰ク「六師佛未ニ出世ニ時、皆道王ニ天竺ニ也」ト、若シ此言ヲシテ眞ナラシメバ六師ノ学派ハ釈迦ニ先チテ起レルモノナリ、

第十、十八派トスルノ説……龜茲國 Kharachar ノ鳩摩羅什婆 Kumārajīva 即チ羅什三藏〔ガ〕維摩經ノ注ニ前ニ挙ゲタル六師ノ事ニ就イテ左ノ如ク云ヘリ、

此六師盡起ニ邪見ニ、裸形苦行、自称ニ一切智、大同而小異耳、凡有三三種六師、合十八部、第一自稱ニ一切智、第二得ニ五通、第三、誦ニ四章陀、上説六師、是第一部也、

此説ニ據レバ、外道ノ哲学派ニ凡ソ十八派アリ、然ルニ其中自ラ一切智 Sarvajñāト称スルモノ六師アリ、是等ハ皆裸形苦行シテ大同小異ナリト云ヘバ、大抵皆尼犍子ノ類ナラン、次ギニ自ラ五通ヲ得ト称スルモノ六師アリ、五通 Panchājñāハ第一、天耳 Divyāśrōtra 即チ世界ニ於ケル一切ノ音声ヲ聞ク能力、第二、天眼 Divyachakṣus 即チ世界ニ於ケル一切ノ形色ヲ見ル能力、第三、宿命 Pūrvanivāsānūsmṛiti jñāna 即チ前世ニ於ケル他一切所行ノ事ヲ知ル能力、第四、他心 Paracitta jñāna 即チ一切他人心中ノ事ヲ知ル能力、第五、神足 Riddhisādhakṛiyā 即チ隨意ニ如何ナル形ニモ變化シテ飛行自在ナル能力、是レナリ、次ギニ四吠陀ヲ誦スルモノ、六師アリ、四吠陀ハ第一、利屈吠陀 Rigveda 第二、娑摩吠陀 Sāmaveda 第三、夜殊吠陀 Yajurveda 第四、阿闍婆吠陀 Atharvaveda 是レナリ、總ベテ三種ノ六師アリ、故ニ合シテ十八派トナス、〔又百論疏上中(十八)ニ〕興皇法師ノ言ヲ引イテ云ク「初ノ六人從ニ聞惠ニ生、即阿蘭迦蘭等、中六人從ニ思惠ニ生、即尼犍子若提子等、後六人從ニ修惠ニ生、謂須跋陀等」ト、聞惠ト云ヒ、思惠ト云ヒ、修惠ト云ヒ、人名トシテ其配當餘リ巧ニ過グルガ故ニ未ダ容易ニ之レヲ信ズルヲ得ザルナリ、

第十一、十派トスルノ説……首楞嚴經卷十上ニハ十種ノ外道ヲ挙ゲテ之レヲ論破セリ、其名称左ノ如シ、

第一、無因論……是レニ又二種ノ細別アリ、第一ハ本無因論、即チアラユル衆生ハ生ニ死ニ、輪廻シテ已ムヲナケレト、溯リテ其初メヲ知ラントスレバ遡トシテ覩ル所ナシ、故ニ一切ノ衆生ハ本来原因ナク自然ニシテ存ストスルモノ、第二ハ末無因論、即チ鳥ハ從來黒ク、鵠ハ從來白ク、黒ハ染メテ造レルニアラズ、白ハ洗ヒテ成セルニアラズ、總ベテ自然ニ出ヅ、是故ニ恰モ過去ノ如ク来末モ亦無因ナルベシトスルモノ、是レナリ、

第二圓常論……常住不滅ヲ主張スル一派ナリ〔ニシテ蓋シ瑜伽論ニ所謂諸法皆常論ト同一ナラン〕、是レニ四種ノ細別アリ、第一、〔二萬劫常論、是レ〕心意〔我〕ト對象〔世界〕ハ共ニ無因ナルガ故ニ二萬劫ノ中ノ衆生、生滅循環シテ會テ散失セズトスルモノ、第二、〔四萬劫常論、是レ〕四大ハ常住ナルガ故ニ四萬劫ノ中ノ衆生生滅スレト、其身体恒久ニシテ會テ散失セズトスルモノ、第三、〔八萬劫常論、是レ〕八識ノ性常恒ナルガ故ニ八萬劫ノ中ノ衆生、循環シテ〔散〕失セズ、本来住ナリトスルモノ、第四、〔不生滅常論、是レ〕思想ハ生々、滅々相續イテ已ムヲナシ、〔想陰ノ盡クル處ニ於テ行陰ノ微細ノ生滅ヲ了セズ、〕故ニ不生滅ヲ成スト〔行陰ハ即チ生滅ノ根元タルヲ知ラズシテ之レヲ以テ不生滅ト〕スルモノ、是レナリ、

第三、分常論……一分ノ無常ト一分ノ常住ヲ主張スル一派、是レニ四種ノ別アリ、第一ハ、我常彼無常論、是レ我ハ世界ニ遍滿シテ凝明不動、一切ノ衆生ハ我が心中ニ生滅ス、我が心性ハ即チ常住ニシテ彼生滅スルモノハ無常ナリトスルモノ、第二ハ劫壞劫不壞論、是レ世界ノ中ニ於テ破壞セル處ヲ無常トシ、破壞セザル處ヲ常住トスルモノ、第三、我如微塵轉論、是レ我心ハ精細微密ニシテ能ク流轉スレト、性、移改ナク、此身ヲシテ生滅セシム、其生滅セシムルモノハ常住ニシテ生滅セシメラル、モノハ無常ナリトスルモノ、第四、行常餘無常論、是レ行陰ノ發

現シテ断エズ遷流スルヲ見テ常住トナシ、色受想等ノ今已ニ滅盡セルヲ無常トナスモノ、是レナリ、

第四、有邊論……是レ瑜伽論ニイハユル有邊無邊〔等〕論ナリ〔ト同ジカラズ〕、是レニ四種ノ細別アリ、第一、

三世有邊論、是レ我が心意作用ハ流遷生滅シテ已ムコナキガ故ニ無邊トス、然レモ過去ト未來トハ見エズ、故ニ有邊トスルモノ、第二、衆生有邊論、是レ八萬劫ヲ見ルモハ衆生アルヲ認識スレモ、ハ萬劫ノ前ハ寂トシテ聞見ナ

シ、其聞見ナキ處ヲ、無邊トシ、其衆生アル處ヲ有〔邊〕トスルモノ、第三、心性有邊論、是レ我レ一切ノ衆生ヲ

知り、一切ノ衆生、我知ノ中ニ現ハル、是レヲ無邊トス、然レモ彼ノ一切ノ人亦知アリ、其知、我知ノ中ニ現ハレズ、是レヲ有邊トスルモノ、第四、生滅有邊論、是レ心路ニ一切ノ衆生ヲ籌度スルニ、一身ノ中ニ即チ生ジ即チ滅ス、世界モ亦此ノ如ク、生處ハ有邊ニシテ滅處ハ無邊ナリトスルモノ、是レナリ、

第五、不死矯乱論：是レニ四種ノ細別アリトス、前ニ叙述シタル瑜伽論ノ四種ノ細別ト同ジカラズ、第一、一切矯乱論、是レ世界ノ中ニ於テ常變生滅増減有無ヲ認識シ、若シ人ノ来リテ主義ヲ問フモノアルモハ我今亦生亦滅、亦有亦無、亦増亦減ト云ヒテ一切ノ時ニ於テ其語ヲ矯乱スルモノ、第二、唯無矯乱論、是レ其念々滅スル處ヲ見テ一切皆無ナリトシ、若シ人ノ来リ問フコアラバ、唯、無ト云フ而已ニシテ、無ヲ除クノ外、言説スル所ナキモノ、第三、唯是矯乱論、是レ念々生ズル處ヲ見テ一切皆有ナリトシ、若シ人ノ来リ問フコアラバ唯、是レト云フ而已ニテ是レヲ除クノ外、言説スル所ナキモノ、第四、俱見矯乱論、是レ有無ヲ俱見シ、若シ人ノ来リ問フコアラバ、有ハ即チ無ナレモ、無ハ是レ有ナラズト云ヒ、交互防遮シテ窮詰シ難キモノ、是レナリ、

第六、十六有相論：是レ或ハ自ラ身ノ堅固ナルヲ見テ、色是レ我ナリト云ヒ、或ハ我ノ徧圓ニシテ国土ヲ含有スルヲ見テ我ニ色アリト云ヒ、或ハ彼ノ前縁我ニ隨ヒテ廻復スレバ色、我ニ屬スト云ヒ、或ハ我が行ノ中ニ依リテ相續

スレバ、我、色ニアリト云ヒ、死後モ亦相アリトナス、此ノ如クニシテ循環シテ受想行ノ三陰ヲ併スルニ、總ベテ十六相アリトスルモノ、或ハ又此レニ從ヒテ死後煩惱モ菩提モアリ、兩性並驅リテ相觸レズト思惟スルモノアリ、第七、八無相論……是レ其色ノ滅スルヲ見ルニ、形ニ所因ナク、其想ノ滅スルヲ見ルニ、心ニ所繫ナリ、其受ノ滅スルヲ見ルニ、復タ連綴スルヲナク、是等ハ現在スラ猶ホ且ツ不可得ナリ、死後如何ンゾ更ニ之レアラン、此〔レ〕ニ由リテ之レヲ觀ルニ死後相ナシ、然ルニ四陰共ニ現在ノ因ナク未來ノ果ナキガ故ニ總ベテ八無相アリトスルモノ、或ハ又此レニ從ヒテ涅槃ノ因果モ一切皆空ニシテ徒ニ名字ノミアリテ畢竟斷滅スト思惟スルモノアリ、（此最後ハ或ハ瑜伽論ノ因果皆空論ト同一ナラン）

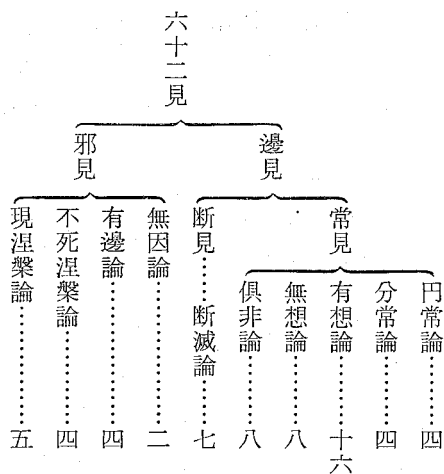
第八、八俱非論……是レ色受想行ノ四陰ハ一切非有非無トシ、現在已ニ此ノ如キガ故ニ死後モ亦此ノ如シトシ、即チ合シテ八種ノ俱非相アリトスルモノ、即チ死後ノ有相無相ヲ言フモノ、ナリ、

第九、斷滅論……瑜伽論ニ所謂七事斷滅論ト同ジ、

第十、現涅槃論……是レ或ハ欲界ヲ以テ涅槃トナス、圓明ノ相ヲ見テ愛慕ヲ生ズルガ故ニ、或ハ初禪ヲ以テス、性、憂ナキガ故ニ、或ハ二禪ヲ以テス、心、苦ナキガ故ニ、或ハ三禪ヲ以テス、極悅隨フガ故ニ、或ハ四禪ヲ以テス、苦樂兩ナガラ消シテ、輪廻生滅ノ性ヲ受ケザルガ故ニ、此ノ如ク有漏ノ天ニ迷ヒ、少分ノ安樂ヲ得テ涅槃ナリト誤想スルモノナリ、即チ瑜伽論ノ妄計清淨論中ノ第一ト第二ヲ合スルモノナリ、

第十二、六十二派トスルノ説……前ニ拳ゲタル十派中ノ細別ヲ合計スレバ總ベテ六十二派トナル、之レヲ六十二見ト云フ、其中邊見ト邪見トノ別アリ、円常、分常、有想、無想、俱非、斷滅ノ六論ヲ邊見トシ、無因、有邊、不死矯亂、現涅槃ノ三論ヲ邪見トス、邊見ノ中斷滅論ヲ斷見トシ、其他ノ五論ヲ常見トス、故ニ悉皆細別ヲ拳グレバ常見ニ

四十、断見ニ七、邪見ニ十五、合シテ六十二トナス、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、



六十二見ノ事ハ尚ホ〔仁王經二(四十) 瑜伽論五十八(左) 全八十七(三) 成唯識論六(廿八左) 義林章四末(十二) 四教儀集註中(三) 唯識述記六末(十二左) 頌疏十九(七) 光記十九(十三) 實疏十九(右) 等ニ散見セリ、各哲学派ノ分類ニ就イテハ上來叙述セルガ如ク、少クモ十二種ノ説アリ、〔楞伽經ニハ百八派トシ、梵網六十二見經ニハ九類六十二派トスト云フ、(尚ホ參考ヲ要ス)、楞伽經一切佛語心品ニ云ク、今以三百八義、仰諸尊中上、〕其中或ハ發達上ヨリ分類セルモアリ、又理論上ヨリ分類セルモアリテ一樣ナラズ、或ハ同一ノ理論ニシテ數種ノ学派ニ

共通ナルアリ、或ハ一学派ノ數種ノ理論ヲ區別セルアリ、或ハ同一ノ理論ニ種々ナル異名ヲ附スルアリ、或ハ相違セル理論ニ類似ノ名稱ヲ附スルアリ、然レモ是等ハ皆歴史の考察上幾多ノ價值ヲ有スルモノナルガ故ニ今妄リニ改變セズ、盡ク集録シテ学者ノ便覽ニ供スルモノナリ、已ニ各哲学派ノ分類ヲ叙述シ了ハリタル以上ハ各哲学派中重大ナルモノ、主義ヲ叙述セン、

第二項 各哲学派ノ主義

各哲学派ノ時代ノ先後ヲ定ムルヲ到底出来得ベカラザルモ、哲学思想發達ノ自然ノ順序ヨリ推測スレバ、客觀世界ノ起原ヲ探究シ、一切ノ現象ヲ一主義ニヨリ解釈セント試シタルモノ、先ヅ競起シタルヲ、粗々希臘ノ哲学初期ニ於ケルガ如ク、次イデ内面的考察ヲ為スモノ、漸次ニ其數ヲ加ヘ、或ハ世界ノ主義ヲ無形ノ實在ニ求メ、或ハ幾多ノ精神論ヲ究明シ、或ハ幾多ノ智識論ヲ考出スルモノ爭生セシナラン、故ニ精密ニ時代ヲ逐ヒテ各哲学派ヲ叙述スルヲ希望スベカラザルモ、亦多少其先後ヲ推測スルヲ少シモ出来ザルニアラズ、今此旨意ニ本イテ左ニ各哲学派ヲ列挙シ、逐次其主義ノ大要ヲ叙述セン、

第一、地論師派

地論師派ハ「オモヘラク」一切萬物ハ地ニヨリテ生ズルガ故ニ地ヲ以テ一切萬物ノ本源トシ、地ヲ供養スルモノハ解脱ヲ得ベシトスルモノナリ、(大日經義
釈卷二)

第二、服水論師派

服水論師派ハオモヘラク「水ハ」萬物ノ根本ナリ、「日本の神話にても、水が国土の本となれり、」水能ク天地ヲ生ジ、有生無生、一切ノ物ヲ生ジ、下ハ阿鼻地獄 Avichi 上ハ阿迦尼吒天 Akanishtha ニ至ルマデ皆水ヲ主ト為ス、水能ク物ヲ生ジ、水能ク物ヲ壞ス、水ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト（大日經義積卷二及ビ外道小乘涅槃論）之レヲ服水ト云フハ「蓋シ」萬物ハ水ヲ服用シテ成ルヲ謂フ（ナラン、服ハ水ニ服事スルノ義也、涅槃經第十六卷^{（十五）}ニ「四月事^レ火、七月服^レ風」トアルヲ以テ知ルベシ、故ニ服水ハ事火ト云フガ如ク服事スルヲ謂フナリ、）萬物ハ水ヨリ生ズルノ説、支那ニモ希臘ニモ「アリ」、其暗合、甚ダ奇ナリトス、明ノ葉子奇^{（字ハ世傑）}ガ草木子管窺篇ニ云ク、天始惟一氣爾、莊子所謂溟滓是也、計^ニ其所^レ先、莫^レ先^ニ於水^ニ、水中滓濁、歷^レ歲既久、積而成^レ土、水土震蕩、漸加^ニ凝聚^一、水落土出、遂成^ニ山水^一、故山形有^ニ波浪之勢^一焉、於^レ是土之剛者、成^レ石而金生焉、土之柔者、生^レ木而火生焉、五行既具、廼生^ニ萬物^一、萬物化生而變化無^レ窮焉、

〔管子水地篇云、

水者何也、萬物之本原也、諸生之宗室也、美惡賢不肖愚俊之所産也、

春秋元命苞云。

水者天地之包幕。五行之始焉。萬物之所由生。元氣之清液也。〕

葉子奇ハ紀元十四紀ノ人ニシテ佛教ノ事モ多少知ラザルニアラザレハ、此思想ハ佛教ヨリ得來タリトハ見エズ、全ク自家獨得ノ見ニ出ヅルモノナリ、希臘ニテハ哲學ノ元^x〔鼻〕祖タルミレト^x〔ツス〕府ノターレス氏^{（紀元前六百ニ）}（十四年頃生ル）水

ヲ以テ萬物ノ由リテ生ゼル本源セトリ、ミレト〔ツ〕府スハ今ノバラチャ村ニシテ小亞細亞ノ「メアンデル」河ノ河口附近ニアリ、ターレス氏ハフヒニシヤ埃及土等廣ク遊歴シタルモノ、或ハ間接ニ服水論師派ノ影響ヲ受ケタルカ、或ハ單獨ニ考出シタルカ、未ダ其果シテ如何ヲ詳悉スルヲ得ザルナリ、

第三、火論師派

火論師派オモヘラク、火ハ萬物ノ本源ニシテ一切此レヨリ生ズ、火ハ常住不滅ニシテ涅槃ノ因タリト、(大日經義積卷二)〔釈迦如来、成道記ニ迦葉氏業跡以降レ心、領ニ火徒ニ而回レ席トアリ、其注ニ迦葉氏即事火外道ト云ヘリ、事火外道ノ事ハ方便心論(四)ニ見ユ、〕其説、頗ルエフェズ、府ノヘラクライトス氏ノ主張セル所ニ類シ、〔ビタゴラス、デモクリタス、ストア学派等皆火を以て原理とせり。〕又ゾロアステル氏ガ創唱ニ係ル拜火教ノ主義ト暗合セリ、或ハ火論師ハ即チ拜火教徒ヲ指シテ云フモノニアラザルヤハ疑ナキニアラ〔ズ〕ザルナリ、〔管閑尹子四符篇云。神者火。云云。以我之神合天地萬物之神。譬如萬火可合為一火。〕

第四、風仙論師派

風仙論師ハ風ヲ以テ世界ノ根本主義トナス、其説ニ云ク、風能ク生物ヲ生長シ能ク生物ヲ殺傷シ、風ハ萬物ヲ造リ能ク萬物ヲ壞ル、風ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト、(大日經義積卷二及ビ外道小乘涅槃論)〔風仙ハ蓋シ時人ガ此派ノ創唱者ニ付與シタル綽号ナラン、〕風ハ即チ空氣ヲ指シテ云フモノナルガ故ニ風仙論師ノ唱道スル所ハミレズ〔ツ〕、府ノアナキシメ子ス氏〔及ビアポロニア府ノデオゲ子ス氏〕ノ〔ガ〕空氣ハ萬物ノ本源ナリトノ説ト、最モ相類似セリ、

第五、口力論師派

口力論師派ハ空ヲ以テ萬物ノ本源トスルモノ、其説ニ云ク、〔口力論師ニ関スル爭論、哲学雜誌第百十四号ニ見ユ〕
 虚空ハ萬物ノ因ナリ、最初ニ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ風ヲ生ジ〔風ヨリ火ヲ生ジ〕、火ヨリ煙ヲ生ジ、煙ヨリ水ヲ生ジ、
 水即チ凍凌シテ堅マリテ地トナリ、地ヨリ種々ノ藥草ヲ生ジ、種々ノ藥草ヨリ五穀ヲ生ジ、五穀ヨリ生命ヲ生ズ、生
 命ハ即チ食物ナリ、後時ハ虚空ニ還没ス、虚空ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト〔大日經義釈二及ビ外道小乘涅槃
 論〕口力ノ義、未ダ考ヘ得ズ、〔口力ハ **मूला** Mulky prāṇa ノ譯ナリ此語屢々吠檀多哲学中ニ出ヅ〕然レ
 氏口力論師派ハ蓋シ亦吠檀達派ニ外ナラズ、吠檀達派ニテハ婆羅吸曼 **Brahman** ヲ以テ虚空 **ākāśa** トシ、一切萬物ハ
 虚空ヨリ生ズトセリ、然レ氏吠檀達派ノ所謂虚空ハ吾人ノ今日意味スル眞空絶無ニアラズシテ精氣ヲ謂フ、〔タイ
 ツチリヤカ、ウパニシヤド〕(一、一)ニ云ク「其自己(即チ婆羅吸曼)ヨリ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ〔風ヲ生ジ〕風
 ヨリ火ヲ生ジ、火ヨリ水ヲ生ジ、水ヨリ地ヲ生ジ、地ヨリ草木ヲ生ジ、草木ヨリ食物ヲ生ジ、食物ヨリ種子ヲ生ジ、
 種子ヨリ人ヲ生ズ」云云ト、以テ口力論師ハ即チ吠檀達派ナルヲ知ル、老子ノ無名、及ビ莊子ノ無々モ亦一切萬物
 ノ本源ニシテ一切萬物ノ還没スル所ナルガ故ニ口力論師派ノ虚空ニ於ケル觀念ト頗ル相類似セルモノアルナリ、成唯
 識論ニ所謂虚空論ハ即チ口力論師ノ哲学ヲ謂フナリ、

第六、時論師派

時論師派オモヘラク、[Muir's Sanskrit Text, Vol. V, pp. 407-409 ヲ見エ、^xマイテエル氏ノ字典ゾロアステルノ下

ニ時論師ノ事アリ、時熟スレバ一切大ナリ、時ハ一切ノ物ヲ作り、一切ノ物ヲ散ズ、假令ヒ百箭ノ射ヲ被ルモ、時
到ラザレバ死セズ、時到レバ小草觸ル、モ即チ一切ノ物ヲ死セシム、偈アリ、云ク、「時來衆生熟、時至則催促、時
能覺ニ悟人」、是故時爲「因」ト、即チ時ヲ以テ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリトナス、其中或ル一派ハ曰ク、一切ノ物
ハ時ノ作ル所ニアラズト雖モ、時ハ不變ノ因ニシテ實在タリ、但ミ微細ナルガ故ニ見ルベカラザルモ、花実等ノ果
アルヲ以テノ故ニ時アルヲ知ルベシ、何ヲ以テノ故ニ、果ヲ見テ因アルヲ知ルガ故ナリ、此時其レ自身ハ不壞ナルガ故
ニ常恒ナリト、時論師派ノ中ニモ多少ノ異派アリシモノト見ユ、或ハ此派ヲ時散外道、若クハ計時外道ト云フ、

第七、方論師派

方論師派オモヘラク、最初ニ諸方ヲ生ジ、諸方ヨリ世間ノ人ヲ生ジ、人ヨリ天地ヲ生ジ、天地滅没スレバ彼處ニ還入
ス、諸方ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト、(外道小乘涅槃論)時論師派ガ時間ヲ以テ世界ノ根本主義トセルニ反シ
テ方論師派ハ空間ヲ以テ世界ノ根本主義トシテ萬物ノ發達ヲ解釈セリ、方論師派ガ人ヨリ天地ヲ生ズト主張スルヲ甚
ダ奇ナリ、或ハ觀念論者ノ主張スルガ如ク、天地ヲ以テ主觀ノ生ズル所トスル所トスルノ意カ、之レヲ確定スベキ歴
史的事實ノ缺乏セルハ最モ遺憾トナス、

第八、無因論師派

各哲学派ガ世界ノ最初ノ原因ヲ探究スルニ當リテ是等ニ反對シテ一切萬物ハ原因ナクシテ自然ニアリトスルモノハ無
因論師派ナリ、其說ニヨレバ一切ノ物ハ無因無緣ニシテ生ジ、染因ナク、淨因ナシ、棘刺ノ針ノ如ク、人ノ作レルニ

アラズ、孔雀ノ羽ノ畫色ノ如キ、皆人ノ作ルナク、自然ニシテアリ、因ヨリ生ズルニアラズ、自然ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト、(外道小乘涅槃論) 其因果ヲ否定スル所ハ懷疑論者ノ如ク、其造化ヲ否定スル所ハ唯物論者ノ如ク、其自然ヲ収局ノ目途トスル所ハ老莊ト相似タリ、大日經及ビ成唯識論等ニハ此派ノ主義ヲ自然論ト称セリ、

第九、本生安茶論師派

本生安茶論師派ハ唱道シテ曰ク、本ト日月星辰虚空及ビ地ナク、唯々大水アリ、時ニ大安茶 Mahānda 生ズ、雞卵ノ如ク、周圍金色ナリ、時熟シテ破レテ二段トナリ、一段ハ上ニアリテ天トナリ、一段ハ下ニアリテ地トナリ、彼二者ノ中間ニ梵天ヲ生ズ、名ヅケテ一切衆生ノ祖公ト称ス、一切ノ有生無生物ハ梵天ノ造ル所ナリ、是レ如キ有生無生物ガ彼處ニ散没スルヲ涅槃トナス、大安茶出生ノ梵天ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト(外道小乘濕〔涅槃論〕〔清凉玄八ニ出ヅ〕成唯識論ニハ之レヲ本際論ト云ヘリ、本際ハ過去ノ初首ノ義ナリ、大安茶ニヨリテ世界ノ本源ヲ解釈スルモノナルガ故ニ之レニ附スルニ本際論ノ名ヲ以テセリ、此派ノ世界開闢ヲ論ズル所、列子ガ「清軟〔輕〕者上為レ天、濁重者下為レ地」ト云ヘルト、相類ス、又アポロニア府ノゲオゲ子ス氏モ稠密ナルモノハ下降シ、輕鬆ナルモノハ上昇シ、此ノ如クニシテ天地成レリトセリ、氏ハ空氣ヲ以テ世界ノ主義トスレ氏、其世界開闢ノ觀念ハ安茶論師派ト大差ナキナリ、

第十、斫婆迦派

斫婆迦 Cīrīvāka ハ創唱者ノ名ニシテ其学派ヲ斫婆迦派ト云フ、所謂順世外道、是レナリ、成唯識論ニハ十三種ノ外

道ヲ挙ゲテ最後ニ順世外道ヲ論破シ、摩陀婆ノ哲学纂論ニハ第一ニ破〔斫〕婆迦派ヲ挙ゲテ其主義ヲ叙述セリ、斫婆迦派一名ヲ路伽耶陀 Lokayata ト云フ、〔一説ニ路伽耶他ハ斫婆迦派ノ一分派ナリト云フ、〕路伽 loka ハ世界ノ義、阿耶陀 āyata ハ流布ノ義、故ニ路伽耶陀ハ世界ニ流布スト云フナリ、故ニ支那訳ノ佛書ニ之レヲ順世外道ト称セリ、順世ハ斫婆迦ノ訳ニアラズシテ路伽耶陀ノ訳ナリ、或ハ又斫婆迦派ヲ路迦也底迦 Lokayatiha ト云フ、其意、路伽耶陀ニ同ジ、路伽耶陀ニ反スル一派ヲ縛摩路迦也底迦ト云フ、法華玄贊九(十)ニ云ク、

路伽耶陀者、先云ニ惡答對人、正言路迦、云ニ順世外道、逆路伽耶陀者、先云ニ惡徵問人、正言縛摩路迦也底迦、云ニ左順世外道、執與前乖者、名ニ左順世一也、

蓋シ同一ノ斫婆迦派ノ中ニ此ノ如ク相反スル二種ノ分派アリシモノナラン、斫婆迦派ハ一時印度ニ多少ノ勢力ヲ有シタルモノト見エ、佛教徒ハ之レヲ排斥スルノ必要ニ迫マレリ、此派ハ蓋シ勿哩〔利〕訶婆跋〔斯波〕底 Brihaspatya ト云ヘル人ノ學說ニ本イテ起レリ、勿氏ハ婆訶婆跋〔斯波〕底經 Bārhaspatya-Sūtra ト云ヘル著書モアリテ鬱然一派ヲ成シタルモ、該書モ今ハ殘缺ノ外傳ハラズ、斫婆迦ハ其主義ヲ勿氏ヨリ得來タルモノナルガ故ニ、或ハ氏ノ言ヲ引イテ自家ノ說ヲ証明セリ、今〔摩陀婆ノ哲学纂論ニ據リ、〕斫婆迦派ノ學說ヲ明瞭ニセシガ為メニ之レヲ五段ニ分チテ叙述セン、

第一、智識論……斫婆迦派ハ一切ノ量ノ中唯々証量 Pratyakṣa 即チ直接ノ知覺〔識〕ノミヲ取リテ其他ハ盡ク之レヲ取ラズ、然ルニ反對者或ハ云ハク「果シテ然ルカ、若シ比量等ガ証明トシテ何等ノ効力ヲモ有セザルモノナラバ、汝ノ欲スル所ハ得ラルベケレ氏、彼等ハ此ノ如キ効力ヲ有スルヲ奈何セン、若シ彼等ガ効力ヲ有セザルナラバ何故煙ヲ知覺スルニ當リテ有知者ノ思想ガ直ニ火ニ進行スルヤ、又何故他人ガ河岸ニ菓アリト云フヲ聞クニ當リテ菓ヲ欲ス

ルモノガ忽チ〔其〕渚ニ進行スルヤト、然レモ所婆迎派ハ總ベテ是等ノ事ヲ以テ戲想界ノ虚誕トシテ比量ノ如キ証量以外ノ量ニ依頼スルヲ否定セリ、其説ニ據レバ、比量ノ効力アルヲ主張スルモノハ記號即チ中名辭ヲ以テ智識ヲ惹起スルモノトス、然ルニ中名辭ハ小名辭ノ中ニ存シ、且ツ大名辭ト不變の連絡ヲ有セザルヲ得ズ、然レモ此ノ如キ連絡ハ爭論ノ要點ニ就イテ何等ノ價值ヲモ有セズ、何ントナレバ、此ノ如キ連絡ガアリタリトテ其レガ比量ニ効力ヲ付與スルニアラザレバナリ、然ラバ此ノ如キ連絡ハ何等ノ方便ニヨリ知ラル、カ、是レ決シテ知覺ニアラズ、知覺ニ二種アリ、一ハ内面的、一ハ外面的、前者ハ此場合ニ適切ナル方便ニアラズ、感覺ト客觀ノ現實ニ於ケル觸接ハ此ノ如ク觸接セラレタル客觀ノ智識ヲ生ズベシト雖モ、過去ト未來ニ関シテ此ノ如キ觸接アルヲナク、中名辭ト大名辭ノ不變の連絡ヲ包含スベキ全稱命題ハ之レヲ知ルヲ得ザルナリ、又全稱命題ノ智識ハ一般ノ部類ヲ以テ其對象トナスト云フヲ得ズ、若シ此ノ如クナルキハ此特殊ノ場合ニ於ケル不變の連絡……例ヘバ此特殊ノ煙ハ火アルヲ音〔意〕味ストスルガ如キ連絡……ノ存否ニ就イテ疑ヲ生ズベケレバナリ、然レモ又内面的知覺ハ其方便ニアラズ、論理學者ガ「同」^x等ハ真對象ヲ描写スレモ、心意ハ外面上他ノ物ニ依從ス」ト云ヘル如ク、心意ノ外面的感覺ニ依從スルハ衆ノ均シク許容スル所ニシテ心意ハ獨立的ニ外面的對象ニ向ヒテ發動スル能力ヲ有セザルナリ、又此量ヲ以テ全稱命題ノ智識ノ方便トスルヲ得ズ、若シ假リニ然リトセバ、此比量ハ又他ノ比量ヲ要シ、他ノ比量ハ又他ノ比量ヲ要シ、此ノ如クニシテ無限退歩ノ虚偽ニ陥ルベケレバナリ、聖教量モ亦之レガ方便トスルヲ得ズ、吾人ハ或ハ勝論派ト同ジク、是レ已〔ニ〕比量中ニ含有セラルトスベク、或ハ記号タル言語ノ認識ニ依從スルガ故ニ矢張困難ヲ脱却スルヲ能ハズ、若シ聖教量ヲ以テ全稱命題ノ智識ヲ得ベキ唯一ノ方便トセバ中名辭ト大名辭ノ間ニ不變の連絡アルヲ示サレザル場合ニアリテハ一箇ノ物ヨリ他ノ物ニ推度スルヲ出来ザルベキナリ、譬喩量ノ如キハ全稱命題ノ智識ノ方便

トシテハ全ク放棄スベキモノナリ、何ントナレバ譬喩量ハ全ク他ノ連絡ノ智識ヲ生ズベキモノナルガ故ニ絶對ノ連絡即チ全稱命題ノ智識ヲ生スベキモノニアラザレバナリ、此ノ如ク全稱全〔命〕題ノ智識ハ出来得ベカラザルガ故ニ比量ハ到底効力アル智識トシテ成立セザルヲ知ルナリ、是故ニ斫婆迦派ハ單ニ現在ニ於ケル直接ノ智識ノミヲ正確ナリトス、然ルニ此ノ如キ智識ハ必ズ特殊のニシテ一般的ニアラザルガ故ニ彼等ノ正確ナリトスル智識ハ獨リ特殊のノモノニ限ルナリ、〔大日經ニ所謂外知論ハ或ハ斫婆迦派ノ智識論ヲ謂フモノナランカ〕

第二、唯物論……斫婆迦派ニアリテハ地水火風ノ四大ハ世界ノ根本主義〔原理〕ナリ、若シ是等ガ結合シテ身体ヲ成スルハ智識ヲ生ズ、譬ヘバ猶ホ幾多ノ成分ヲ混和スルキハ麻醉力ヲ生ズルガゴトシ、若シ是等ノ結合ガ破壊サル、キハ、智識ハ忽チ断滅シ了ナル、彼等ハ「ブリハドアーラニヤ、ウパニシヤド」(二、四、十二)ニ「智識ハ是等ノ諸元素ヨリ生ジテ又之レニ還没ス、命終ノ後、復タ智識アルニアラズ」トアルヲ引イテ自家唱フル所ノ証トセリ、彼等オモヘラク自〔身〕体ヲ離レテ別ニ精神アルニアラズ、精神ハ即チ身体ノ智識ヲ具有スルモノニ過ギザルナリト、此レニ由リテ之レヲ觀レバ斫婆迦派ノ主義ノ純然タル唯物論ナルヲ復タ疑ヲ容レザルナリ、

第三、自然論……彼等又オモヘラク、不可思議力 *Adishita* ノ如キハ唯々比量ノミニヨリテ証セラルベキモノナルガ故ニ之レヲ否定セザルベカラズ、反對者ハ云ハン、若シ汝ノ如ク不可思議力ヲ許容セザル以上ハ世界ノ種々ナル現象ハ何等ノ原因モ有セザルヲトナラント、然レハ此反對論ハ價值アルモノニアラズ、何ントナレバ、是等ノ現象ハ一切自然発動ニヨリテ物ノ固有性ヨリ生ズルヲ得ベケレバナリ、是ニ至リテ斫婆迦派ノ唱フル所ハ自然論ナルヲ知ル、大日經、唯識論等ノ所謂自然論、瑜伽論顯揚論外道小乘涅槃論等ノ所謂無因論ハ或ハ此派ヲ指シテ云フモノナランカ、斫婆迦派ハ世界ノアラユル現象ハ自然ニ生ズルモノニシテ別ニ之レヲ惹起スルノ主宰アリトセザルガ故ニ其無神論者

ナルヲ推シテ知ルベキナリ、

第四、快樂論……恰モ希臘ノデモクトス² ロイキップス及ビエピクルス諸氏ノ原子論ガ快樂論 Hedonismus ニ陥イリタルガ如ク、斫婆迦派ノ原子論モ亦快樂論ニ陥レリ、彼等オモヘラク、人類唯一ノ目的ハ肉体ノ快樂ヲ得ルニアリ、若シ現在ノ現在^{××}ノ快樂ヲ放棄スルガ如ク怯膽ナルモノナラバ獸類ノ如ク愚ナリト謂フベシト、彼等ガ又勿利訶斯沈底ノ「生命ノ續ク限り、生命ヲ安逸及ビ誤[×]」〔娛〕樂中ニ送ラシメヨ云云「若シ一タビ此身ガ塵土トナルキハ如何ンシ[×]再ビ地上ニ来タルヲ得ン〔ヤ〕ト云ヘル誤[×]」〔語〕ヲ引イテ自家ノ説ヲ証スルニ至リテハ楊子及ビアリスチップス氏ノ極端ノ快樂〔論〕ト同一轍[×]〔轍〕ニ出ヅルモノト謂フヲ得ベシ、是蓋シ肉慾屠殺ノ如キ慘烈ナル禁慾主義ノ流行ニ對シ、反動トシテ起レルナラン、彼等ハ現在ノ快樂ヲ享受スルヲ以テ唯一ノ目的トスルガ故ニ現在[×]荊〔棘〕刺〔ノ〕[×]等ニヨリテ生ゼラレタル苦痛ノ外、別ニ地獄アリトセズ、地上ノ国王ハ衆人ノ瞻仰スル所ナルガ故ニ之レヲ以テ唯一ノ最上実在トシ、其上ニ更ニ他ノ無形ノ実在アリトセズ、又解脱トシテハ唯ミ身体ノ溶解アル而已トセリ、

第十一、若提子派

哲学派ノ分類ノ中ニ叙述セルガ如ク提婆ノ外道小乘四宗論ニハ若提子論師 Jñātiputtas ヲ挙ゲテ僧伽毗世子、尼乾子ノ三論師ト其説ヲ異ニスルモノトセリ、(渡邊国武氏ノ印度哲学小史モ四宗論ニ、本イテ尼乾子ト若提子トヲ區別セリ、)然レモ尼乾子ト若提子トハ果シテ全ク別派ナルカ、此事頗ル疑ハシ、維摩經ニ六師ヲ挙ゲニ乾陀若提子 Nirgrantha Jñātiputra ヲ以テ第六トセリ、注ニ羅什曰ク「尼健陀字也提母名也」ト、尼健陀ヲ以テ字トスルヲ妥当ナラザルモ、若提ノ姓タルヲ疑フベカラズ、僧肇曰ク「尼健陀、其出家總名也、如^三佛法出家名ニ沙門^二、若提母名也」ト、此説是ナリ、尼健陀ハ宗派ノ名ナレバナリ、慧琳ノ

音義廿六(左六)ニモ「尼乾匄、此云「無繼」、是外道總名也、若提云「親友」、是母名」ト云ヘリ、是故ニ若提子ハ即チ尼健子ナリ、尼健子ト若提子トヲ分チテ二派トナスヲ得ザルナリ、若提子ノ教義トスル所ハ全ク闍伊那教ト合一ス、羅什曰ク「其人起レ見、謂罪福苦樂、盡由三前世、要ニ必償、今雖レ行レ道、不レ能ニ中斷ニ」ト、僧肇及ビ慧琳ノ述ブル所モ之レト大同小異、要スルニ、罪福苦樂、皆前世ヨリ定マレルモノナルガ故ニ、唯之レヲ受クルヨリ外之レナク、能ク之レヲ變更スベカラズトスルモノ、即チ瑜伽論ニ所謂諸因宿作論ナリ、故ニ若提子ノ尼健子タルヲ疑ナキナリ、阿闍蘭經中ニ摩訶毗羅ヲ若那多利弗咀羅 Jñāti-puta ト称スルヲ二回アリ、若提子 Jñāti-puta ハ蓋シ若那多利弗咀羅ノ訛ナラン、ビュレル氏モ尼健匄若提子 Nirgrantha Jñātiputa ヲ以テ闍伊那派ノ創唱者タル摩訶毗羅トセリ (See Barth's Religions of India p. 150) 若提 Jñāti 正シクハ若那多利 Jñātri ハ羅闍鋪 Raiput 種族ノヲナリ、(刹利ヨリ派生モリト称スル種姓ナリ) 故ニ尼健匄若提子ハ羅闍鋪種族ニ属スル尼健子ノ義ニシテ即チ闍伊那派ノ創唱者タル摩訶毗羅ヲ指シテ謂フモノナリ、然ルニ提婆ノ外道小乘四宗論ニ尼健子ト若提子ヲ分チテ二派トシタルハ最モ解シ難シ、或ハ同一ノ尼健子派中ニ分派アルヲ見テ此ノ如ク分別シタルモノナランカ、四宗論ニ據レバ若提子ハ尼健子ガ亦一亦異ノ説ニ反シテ一切法ハ不一不異ナリトス、一切法ハ一体ト云ハントスレバ、萬物歷然タリ、若シ異体ト云ハントスレバ、彼此相峻チテ成立ス、一切法ハ一体ナリト云フモ非ナリ、一切法ハ異体ナリト云フモ非ナリ、二説共ニ非ナル以上ハ此「両」者ヲ合一シタル亦一亦異ノ説モ亦非ナリ、是等三説ハ皆過失アルガ故ニ一体ト説クベカラズ、異体ト説クベカラズ、亦一亦異ト説クベカラズ、是故ニ智者ハ此三説ヲ離レ、不一不異ニ住スト云ヒテ寂默無言ヲ守ル、嘉祥ノ百論疏上中(三十)ニ據レバ、若提子論師ニ六障六自在ノ説アリ、六障トハ第一ニ不見障、第二ニ苦受障、第三ニ愚癡障、第四ニ命盡障、第五ニ不得好性障、第六ニ惡名障、是レナリ、若シ此六障ニ反スルキハ即チ六自在ナリ、然ルニ此ニ若提

子論師ノ六障トスル所ハ尼犍子派ニモ亦之レアリ、百論疏上中^(十七)ニ尼犍子派ニ五智六障四濁アルヲ論ゼリ、此レニ由リテ之レヲ考フルモ、若提子ト尼犍子ト「ノ」間ニ親密ノ關係アルヲ知ルベキナリ、

第十二、波 儼 尼 派

摩陀婆ノ哲学纂論ニハ波儼尼派 [Pāṇīya] ヲ以テ第十三トシテ叙述セリ、〔波儼尼派ハ波儼尼 Pāṇini 所ノ創設スル所ニ係ル、〕波儼尼ハ印度最古ノ文法学者ナリ、傳説ニ據レバ、彼レハ波紕 Pāṇin ト云ヘル人ノ后裔ニシテ立法者タル提婆羅 Devala ノ孫ナリ、父ノ名ハ詳ナラザレド、母ハ駄瑟 Dakṣhi ト云フ、故ニ又彼レヲ駄逝耶 Dakṣheya ト称ス、彼レハパンジャブノ北部ニ属スル乾陀羅國 Gāndhāra ノ都府娑羅都羅底 Salātura 〃生タル、故ニ又娑羅都梨耶 Salātura 〃ト称ス彼レノ時代ハ今ニ至リテ確定セラレズ、或ハ〔紀元前〕六世紀ノ人ト云ヒ、或ハ〔紀元前〕四世紀ノ人ト云ヒ、諸説紛々、ゴルドスツケル氏ハ釈迦以前ノ人ナリトセリ、吾人ハ姑ク氏ニ従ハン、波儼尼ニ著書アリ、阿濕他闍伊 Ashīdhyaī 又阿濕他領波尼々琰 Ashīakam Pāṇīyam 〃ト云フ、印度人著書中最モ創見多キモノ、一ナリト云フ、

波儼尼ハ元來文法家ナレバ哲学上ニ直接ノ關係ナキガ如クナレド、其文法上ノ學說ハ深遠ナル哲学の意義ヲ有シ、吠檀達派トハ其出立點ヲ異ニスレド、其歸着點ヲ同ウシ、遂ニ萬有本体タル娑羅吸曼ノ觀念ニ到達セリ、波儼尼ノ説ニ據レバ、常住ノ声ヲ塞普多〔塞普多、当〃作ニ塞鋪他〕sphoṭa 〃ト云フ、如〔何〕ナル言葉モ塞普多ナキモノニアラズ、今茲ニ「ウシ」ト云ヘル語アルキハ吾人ハ此言葉ノ成分タル文字ヲ離レテ別ニ此言葉ノ意義ヲ認識スルナリ、此ノ如キ知覺分明ナル撞着ナク虚妄ノ知覺ナリト云フヲ得ズ、故ニ塞普多アリトスルニアラザレバ吾人ガ言葉ノ意義ヲ

認識スルヲ如何ンシテ解釈スベキカ、或ハ此ノ如キ認識ハ文字ヨリ起ルト思惟スルモノアルベケレト、是レ決シテ然ラズ、此ノ如キ認識ハ文字ガ合一シテ生ズルカ、又ハ單獨ニ生ズルカ、文字ハ唯ミ刹那々々ニ孤立スルガ故ニ合一セル全部ヲ成ス可能ハズ、然レモ又孤立セル文字ハ意義ノ認識ヲ生ズベキ力ヲ有セズ、是故ニ意義ノ認識ハ文字ノ然ラシムル所ニアラズ、果シテ然ラバ吾人ヲシテ意義ヲ認識セシムル所ニ塞普多ナカルベカラズ、塞普多ハ文字ト異ニシテ文字ニヨリ「テ」啓示セラル、常住ノ声ナリ、吾人ハ此レニヨリテ意義ヲ認識スルヲ得ルナリ、塞普多ハ啓示ノ義ナリ、之レヲ然ク稱スル所以ハ是レ文字ニヨリテ啓示セラル、故ニ塞普多ト云フ、或ハ又意義ガ此レニヨリテ啓示セラル、ガ故ニ塞普多ト云フ、文字ハ如何ニ塞普多ヲ啓示スルカ、第一ノ文字ガ其啓示力ニヨリテ不可見ノ塞普多ヲ啓示シ、之レニ次グ所ノ文字ガ此塞普多ヲ益ミ啓示スルヲ、猶ホ宝玉ノ眞型ハ初メ之レヲ瞥見シタル片ニハ詳悉ナラザルモ、最後ノ検査ニ至リテ確定セラル、ガゴトシ、文字ハ言葉ノ意義ヲ啓示スルモノニアラザルガ故ニ、吾人ハ言葉ノ意義ヲ啓示スベキ力ヲ有スル不可分ノ塞普多ガ明晰ナル範疇トシテ實在セルヲ是定セザルヲ得ズ、一切ノ言葉ノ意義ハ畢竟最上類 *summu geuns* (ナリ)、即チ最上ノ實在ナリ、即チ婆羅吸曼ナリ、之レヲ譬フルニ、猶ホ無色ノ水晶ガ各種ノ對象ニ感染セラレ、為メニ青赤黃等ノ色ヲ有スルガゴトク、婆羅吸曼ハ各種ノ對象ニヨリテ認識セラレ、各種ノ對象ト同一視セラル、是故ニ吾人ハ各種ノ對象ニヨリテ各種ノ言葉ヲ用フレト、畢竟是レ實在ナリ、若シ營粹ニシテ單純ナル實在ガ、其各種ノ對象ト關係アルガ為メニ牛馬等ノ如キ特殊ノ物質ニ於テ発見セラル、片ハ之レガ為メニ、差別セラレ、此種彼種ト稱スルガ故ニ一切ノ言葉ハ之レニ從ヒテ成ル、然レモ之レニ共通ナルモノハ即チ實在ナリ、即チ最大精神ナリ、實在ハ牛馬等ノ如キ分化セル各種ノ對象中ニ発見サルベキ最上類ナリ、是故ニ一定ノ意義ヲ有スル一切ノ言葉ハ畢竟最上類タル實在ニ倣存スルモノナリ、最上類タル實在トハ何ヲカ云フヤ、婆羅吸曼是

レナリ、婆羅吸曼ハ一切ノ言葉ガ意味スル唯一ノ對象ナリ、此唯一ノ對象ガ差別相ヲ有スルハ全ク無明ニ本ヅク、恰モ一切延長セル夢ノ世界ガ、唯迷妄ノ發達ニ過ギザルガ如ク、一切此延長セル覺ノ世界モ亦之レト同様ナル迷妄ノ發達ナリ、若シ常住不變ナル最上ノ婆羅吸曼ガ實在セル歎喜思想トシテ又個人ノ精神ト同一体ナリトシテ知ラル、^x即チ本来ノ無明ガ打破サル、^x此時始メテ解脱スルヲ得、解脱トハ此婆羅吸曼ト合一スルヲ謂フ、經ニ云ク「能ク言葉ノ婆羅吸曼ヲ曉得スルモノハ最上ノ婆羅吸曼ニ到達ス、」^(梅祖麗婆波尼沙土第六篇第二十二)ト、波爾尼ハ此ノ如ク言葉ノ叙述ヲ以テ解脱ノ方便トセリ、(摩陀婆ノ哲学纂論)

波爾尼派ガ塞普多即チ常住ノ声ノ説ヲ主張シ、声ノ常住ナルヤ否ヤハ詳論セズ、是ニ声ハ常住ナルモノナリト假定セルヲ以テ之レヲ觀レバ、弭曼薩派ノ主義ヲ奉ジテ起ルモノナラン、殊ニ其婆羅吸曼ヲ以テ萬有本体トスル觀念ノ如キハ吠檀達派ノト、些ノ異同アルヲ見ズ、其當時ノ異端ナラザルヲ、推シテ知ルベキナリ、然ルニ波爾尼派ガ最モ吾人ノ注意ヲ惹起スルハ其本体論 Realismus ヲ主張シテ當時ノ名目論 Nominalismus ニ反對セシヲ是レナリ、毗耶提 Vyādi オモヘラク、言葉ハ單獨ノ物ヲ意味スルモノニテ類ヲ意味スルニアラズ、然レ氏類ハ特質トシテ含蓄セラルト、毗耶提ハ如何ナル学派ノ人ナルヤヲ知ラズ、但ニ夜耶派ガ弭曼薩派ニ反シテ言葉ハ單獨ノ物ヲ意味シ、類ヲ意味スルニアラズトセリ、毗耶提及ビ夜耶派ガ主張スル所ハロスツェリヌスオツカム諸氏ガ中世ニ当リテ唱道セル名目論ト其趣ヲ同ウセリ、毗耶提ガ類ハ特質トシテ含蓄セラルトスルノ意、明瞭ナラズ、然レ氏恐クハ結論ニヨリテ始メテ知ルヲ得ルノ意ナラン、果シテ然ラバ是レ一般ハ後天ナリ universalia post rem ヲ預想スルモノナリ、之レニ反シテ波爾尼ガ主張スル所ハ一切ノ言葉ハ畢竟最上類即チ最上ノ實在ヲ意味スルガ故ニ極端ノ本体論ニシテ一般ハ先天ナリ、universalia post [ante] rem ヲ預想セリ、婆闍畢耶延那 Vājapyāyana オモヘラク、各個ノ言葉ハ一類ヲ

意味ス、例ヘバ、牛等ト云ヘル言葉ノ如キハ特殊ノ物質ニ共通ナル一類ヲ意味スルモノニテ若シ此一類ヲ領解セバ、此關係ニヨリテ特殊ノ物質ヲ領解スルヲ得、又白等ト云ヘル言葉ノ如キハ特殊ノ性質ニ共通ナル一類ヲ意味スルモノニテ、此類ニヨリテ其性質ヲ領解シ、其性質ニヨリテ特殊ノ物質ヲ領解スルヲ得、此ノ如クニシテ如何ナル言葉モ各々一類ヲ意味セザルナシト、是レ即チ本体論者ノ温和ナル者ニシテ一般ニ〔ハ〕物ニアル *universalia in re* ヲ預想スルニ似タリ、是等ハ東西ノ暗合ト雖モ、亦思想發達ノ自然同一轍ニ出ヅルモノアルヲ知ルベキナリ、

第十三、毗〔婆伊〕濕奴〔那婆〕派

婆羅門經ニアリテハ婆羅賀磨、毗濕奴及ビ濕婆ヲ一体三分ト稱シ、古來之レヲ諸神中ノ最大ナルモノトシテ崇拜シ來レリ、然ルニ婆羅賀磨ハ抽象的ノ絶對タル婆羅吸曼トシテ吠檀派ノ哲学中ニ重要ナル地位ヲ占ムルノ外具體的ノ人格ヲ有スル神トシテハ崇拜者ガ意外ニモ僅少ナリ、唯々補濕伽羅 Pushkara （アーシミ
ニル附近） 及ビイドゥル Idur ノ二ヶ所ニ於テ崇拜者アルノミ、是レ婆羅賀磨ハ造物者トシテ已ニ其業務ヲ成遂ゲタリトスレバナリ、毗濕奴ト濕婆ヲ崇拜スルモノハ、其數極メテ多ク、分レテ二派トナリテ對立ス、毗濕奴ヲ崇拜スルモノヲ毗〔婆伊〕濕那婆 Vaishnava ト云フ、濕婆ヲ崇拜スルモノヲ晒婆 Saiva ト云フ、猶ホ毗濕奴派濕婆〔派〕ト云フガゴトシ、毗濕婆〔奴〕ハ吠陀教ノ時代ヨリ之レアレヒ、其崇拜ハ釈迦在世ノ時ヨリ旃陀羅毬多 Chandragupta （紀元前三百十五年
乃至二百九十二年） ノ時マデニ廣ク印度國民中ニ傳播セリ、(Siehe Lassen's Ind. Alterth. Bd. II. S. 465) 是レヨリ以後毗〔婆伊〕濕奴〔那婆〕派益々盛ニシテ今日ニ至レリ、其分派數多アリト雖モ、重要ナルモノハ六〔七〕種ニ過キズ

第一、藍摩奴闍派 Rāmānuja……………藍摩奴闍ノ創唱スル所ニ係ル、

第二、藍摩難陀派 Rāmāṇḍa……藍摩奴闍ノ徒弟、藍摩難陀ノ創唱スル所ニシテ梵伽河邊ニ蔓延セリ、
第三、カビール派 Kabir ……………藍摩難陀ノ十二弟子中最モ有名ナルカビール氏ノ一派ナリ、氏ハ生レハ回々教徒ニシテ十四紀ノ末ニ生存セリ、

第四、伐羅婆闍梨耶派 Vallabhachārya ……伐羅婆闍梨耶ノ創唱スル所ニ係ル、彼レハ千四百七十九年ニ生レ、濕婆派ト論難シテ大ニ勝難シテ大ニ勝利ヲ得、八十四人ノ弟子ヲ遺セリ、

第五、摩突〔杜〕婆派 Mādhva……摩突〔杜〕婆闍梨耶ノ創唱スル所ニ係ル、

第五〔六〕制他尼耶派 Chaitanya……訖利濕那ノ化身ト称スル制他尼耶ノ一派ナリ、

〔第七、波利伐羅〕迦派 Parivājika……其起原及ビ學說共ニ詳ナラズ、〕

六〔七〕派ノ中哲學派トシテ最モ吾人ノ注意ヲ惹クモノハ第一ト第五ノ二派ナリ、此二派ハ摩他婆モ哲學纂論中ニ獨立セル學派トシテ叙述セリ、

第十四、藍摩奴闍派

藍摩奴闍派ハ毗〔婆伊〕濕那婆派中ノ一派ニシテ藍摩奴闍 Rāmāṇḍa ノ創唱スル所ニ係ル、彼レノ事蹟ハ詳ナラズト雖モ、彼レガ毗〔婆伊〕濕那婆派ノ革新者タリシヲ疑ナキヲナリ、彼レハ南方印度ニ出デタル人ニテ、或ハ紀元十二世〔紀〕ノ中頃ニ生存セリト云ヒ（ウキルソン氏）、或ハ〔紀元〕十二世紀ノ末ニ生存セリト云フ（モニエル、ウキルリヤムス氏）、今其學說ノ大要ヲ左ニ叙述セン、

藍摩奴闍ハ三諦ヲ立テ、世界ヲ解釈ス、三諦ハ第一ハ精神、即チ主觀ナリ、即チ個體精神ヲ謂フナリ、第二ハ非精

神、即チ客観ナリ、即チ可見ノ世界ヲ謂フナリ、第三ハ主宰ナリ、即チ最上精神ヲ謂フナリ、吠檀達派ニアリテハ婆羅吸曼 *Brahman* ヲ最上精神トスレド、藍摩奴闍派ニアリテハ曷利 *Hari* 即チ毗濕奴 *Vishnu* ヲ以テ最上精神トスルナリ、個体精神ト最上精神ノ關係ハ、個体精神ハ最上最神ノ身体ニシテ最上精神ハ一切個体精神ノ精神ナリ、個体精神ノ身体タル一切ノ現象ハ最上精神ノ發表ニ過ギズ、人天ノ別ナク、一切ノ現象ガ個体精神ノ身体タルガ如ク、是等ハ總ベテ最上精神ノ身体ニシテ全ク最上精神ト同一タリ、天人、夜叉、畢舍遮、龍神、羅刹、鳥、樹、石、草、瓶、布等ノ言葉ハ何ゾレモ特殊ノ身体ヲ有スル個体精神ヲ意味セザルナク、此ノ如クニシテ一切ノモノハ畢竟其中ニアリテ支配スル最上精神ニ歸ス、換言スレバ、如何ナルモノモ、萬有主宰ト異ナルヲナク、一切ノ言葉ハ畢竟最上精神ヲ意味スルナリ、還没ハ萬有ガ名称ト形体ノ差別ヲ失ヒ、知覺スベカラザル状態ニ復歸シ、單ニ流出の原因タル絕對精神トシテ存スル之レアリ、造化ハ絕對精神流出ノ結果トシテ萬有ニ名稱ト形体ノ差別ヲ生ジ、此ノ如クニシテ絕對精神ガ知覺サルベキ状態〔トナル〕ナリ、是故ニ原因モ結果モ、創世如何ニヨリテ之レヲ觀レバ同一ニシテ、アラユル差別現象ハ其有情ト無情ヲ論ゼズ、一切最上精神ノ身体タリ、英國ノ詩人ポープ氏ガ

Whose body nature is, and God the soul.

ト云ヒシガ如ク、最上精神ハ名称ト形体ノ差別ヲ有スル萬有ノ〔中ニ於ケル〕精神ナリ、最上精神ヲ除イテ別ニ眞実ノモノアルニアラザルナリ、故ニ精神、非精神、及ビ主宰ノ三諦ヲ立ツレド、之レヲ根底ニ歸スレバ唯一ノ最上精神アルノミ、故ニ此點ヨリ之レヲ云ヘバ、吠檀達派ノ哲学ト同ジク一元論ト云ハザルベカラズ、然レド又精神、非精神及ビ主宰ノ本性ニ差別ナキニアラズ、其根底ノ同一ナルガ為メニ、其差別ノ本性ヲ看過スベキニアラザルナリ、第一、個体精神ハ元來規定ノ純智ヲ有スレド、無始ヨリ無明ニ覆蔽セラレ、其法非法ノ程度ニ從ヒテ智識ノ伸縮ヲ免レ

ズ、個体精神ハ果報ヲ享受スルモノニテ、其法非法如何ニヨリテ苦樂ヲ經過シタル後、始メテ主宰ノ智識ヲ得ルニ至ルナリ、第二、非精神ハ應報ノ對象即チ苦樂ノ經驗ノ對象ニシテ無覺ナルヲ、人生ノ目的ニ裨補ナキヲ、改變ノ出来得ベキヲ等ハ其固有性ナリ、第三、最上精神ハ實在ニシテ精神非精神兩者ノ内面的支配者ナリ、全智ノ無限光榮、統權、威勢、權力、光耀、及ビ其他無數ノ吉祥性アリテ、精神ト非精神ノ別ナク、凡ソ已レト異ナルモノハ如何ナルモノモ隨意ニ創造シ、比較ナキ無限ノ粧飾ヲ有シ、單獨ナリ、一樣ナリ、又神聖ナリ、故ニ藍摩奴闍派ノ三諦ハ婆羅門神話ノ一体三分 Trimūrti 佛教ノ三身 Trikaya 基督教ノ三位一体 Trinitas ノ如ク平等ニシテ差別アリ、差別アレハ平等ナリ、故ニ其差別ニ拘泥シテ其平等ヲ忘ルベカラズ、又其平等ニ拘泥シテ〔其〕差別ヲ忘ルベカラズ、今之レヲ表ニスレバ、



個体精神ハ最上精神ノ身体ナレハ、又最上精神ト異ナリ、梨俱吠陀 R̥g-Veda 第一篇百六十四章第廿節ニ「二個之鳥、伴侶、朋友」云々ト云ヒ、迦那陀ノ格言ニモ、精神ハ事情ノ駁雜ナルガ為メニ駁雜ナリトセリ、以テ証スベシ、個体精神ハ又常住不滅ナリ、薄伽梵歌 Bhagavadgītā 第二章第廿節ニ云ク、「精神ハ生レタルニアラズ、又死スルニアラズ又生存シ来タリテ此レヨリ生存セザルモノニアラズ、不生、不變、常恒、原本ニシテ身体ガ殺サル、キニ殺サレザルナリ」ト、若シ精神ガ常住不滅ノモノニアラザルハ、法非法ニ相当スル應報ナカルベキナリ、個体精神ハ又最微ノモノナリ、古典ニモ一毛ノ百分ノ一ガ更ニ百分ニ分割セラル、キハ個体精神ハ其一分ナリトアリ、非精神ト称

スル此可見のノ無覺世界ハ三種ノ部分ヨリ成ル、一ハ對象、二ハ方便、三ハ應報ノ場處、是レナリ、此世界ノ能成の及ビ材料的原因ハ即チ主宰ナリ、或ハ之レヲ婆藪天 Vāsudeva (訖利濕那ノ父) ト云ヒ、或ハ之レヲ「プルシヨッタス」⁴⁴ Puruṣot-tana (各種精神中ノ最モ優美ナルモノ、義) ト云フ、皆毗濕奴ノ異名ナリ、此学派ノ教ニ據レバ、毗濕奴ハ即チ最上精神ニシテ無限ノ慈悲〔心〕ヲ有シ、若シ能ク之レニ事フルモノアレバ其功勞如何ニ從ヒテ應報ヲ付与スルモノナリ、其存在ニ五種ノ狀態アリ、

第一、崇拜ノ狀態トシテ、即チ偶像ノ如キモノヲ謂フナリ、

第二、流出ノ狀態トシテ即チ藍摩 Rāma 等ノ如キ化身ヲ謂フナリ、

第三、啓示ノ狀態トシテ、即チ婆藪天 Vāsudeva 毗伽婆那 Sankarshana (毗濕奴ノ第二子) 波羅瞻那 Pradyumna (訖利濕那ノ子) 阿

尼樓駄 [Aniruddha] (訖利濕那ノ孫) ノ四種ノ發現、是レナリ、

第四、細身ノ狀態トシテ、即チ六種ノ屬性ヲ有スル最上精神ナリ、即チ婆藪天ナリ、六種ノ屬性ハ無欲、不死、無憂、無餓、正見、正意ニシテ皆罪業ヲ杜絶スルモノナリ、

第五、内面的支配者ノ狀態トシテ、即チ吠陀經ニ「精神ノ中ニ住スルモノハ内部ニ於テ精神ヲ支配ス」ト云ヘルガ如ク、一切ノ精神ヲ活動セシムルモノナリ、

崇拜者ハ第一ノ狀態ヨリ崇拜シ、次第二順序ヲ逐ヒテ崇拜シ、崇拜スルニ從ヒテ解脱ノ障礙タル罪業ヲ殄滅スルヲ得ルナリ、崇拜ハ五種ノ儀式ヨリ成ル、第一ハ參詣、第二ハ準備、第三ハ敬礼、第四ハ誦讀、第五ハ祈念、是レナリ、參詣ハ神社ヘ至ル路上ヲ掃除スルガ如キヲ謂ヒ、準備ハ香花等ヲ裝置スルヲ謂ヒ、敬礼ハ即チ毗濕奴ニ對スルノ敬礼其レ自身ヲ謂ヒ、誦讀ハ毗濕奴ヲ讚美セル經文ヲ背誦スルヲ謂ヒ、祈念ハ毗濕奴ヲ冥想シテ之レニ禱ルヲ謂フ、若シ此ノ如キ崇拜ノ結果トシテ得ラレタル智識ノ為メ、可見のノ世界ガ断滅シ了ハラバ無限ノ慈悲心ヲ有セル最上精神ハ

主宰ヲ祈念シ、主宰ノ中ニ吸入セラレタルモノニ其無限ノ境界ヲ附与シ、己レト平等ナリトノ意識ヲ有セシム、若シ一タビ其無限ノ境界ニ達スルヲ得バ、復タ輪廻ノ境界ニ歸スルヲナキナリ、此レニ由リテ之レヲ觀レバ、藍摩奴闍派ハ解脱ハ唯々他力本願ニヨリテノミ得ラルベキモノトセリ、

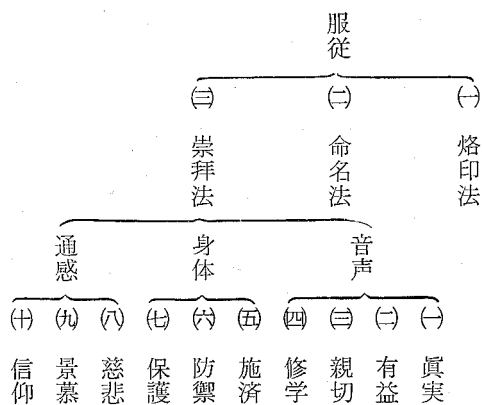
藍摩奴闍派ガ毗濕奴ヲ以テ最上精神トシ、畢竟一元無差別ノ根本主義ニ歸スル所差々吠檀達派ニ似タリ、其教義ハ毗濕奴富蘭那 *Vishnu-Purāṇas* ニ基ヅクト雖モ、亦実ニ吠檀達派ノ經文ヨリ得來タルモノ多シト云フ、然レハ遂ニ吠檀達派ト混同スベキニアラズ、其最上精神ヲ婆羅吸曼ト云ハズシテ毗濕奴ト云ヘルガ如キハ單ニ名称ノ異同ニ過ギズト云フベキモ、他ノ點ニ於テ顯著ナル差違ナキニアラズ、商羯阿闍梨 *Śaṅkarācārya* ハ獨リ絶對タル婆羅吸曼ヲ以テ唯一ノ實在トシ、客觀主觀ノ差別世界ノ如キハ、一切迷妄ニ屬ストセリ、是故ニ彼レハ藍摩奴闍派ノ主張スル如キ精神、非精神及ビ主宰ノ区分ヲ許容セザルベシ、然レハ藍摩奴闍派オモヘラク、若シ果シテ彼レガ所謂迷妄ノ証明アラズ[×]〔バ〕、是レ不可ナルニアラザルモ、智識ニヨリテ排除スベキ此ノ如キノ迷妄即チ〔無明ガ〕無始[×]ヨリ成立セル實在アルニアラザルナリ、茲ニ吠檀達派ニ於ケルガ如ク自覺主義ガ無明(即チ迷妄)ノ客觀及ビ主觀トシテ寫象サル、トセンカ、若シ寫象サル、キハ無明ハ實在ノ智識ニヨリテ消滅スルガ故ニ如何ニシテ無明ハ尚ホ繼續スルヲ得ルカ、若シ寫象サレザルキハ、吾人ハ如何ニシテ主觀モ客觀モ有セザル無明ニ就イテ意識ヲ有スルヲ得ルカ、當ニ此ノ如ク迷妄ノ証明ニ就イテ困難アル而已ナラズ吠陀經モ亦非真理ノ中ニ包容セラル、宇宙迷妄ノ存在ニ関スル証左ヲ附与セザルナリト、藍摩奴闍派ニアリテモ無明ヲ云ハザルニアラザレハ、吠檀達派ノ無明トハ其意義ノ範圍ニ甚シキ差異アルヲ忘ルベカラザルナリ、藍摩奴闍派ノ信者ハ髮根ヨリ、二個ノ白直線ヲ畫イテ兩眉ニ至リ、尚ホ鼻根ニ一横線ヲ畫イテ二個ノ線端ヲ連絡ス、之レヲ其記號トス、又彼等ハ食事ノ為メニ種々慎重ナル儀式ヲ有スルニ於テ著名ナリ、

藍摩婆 ^xPāmāvats [Rāmāvats] ト称スル宗徒モ亦藍摩奴闍派ノ信者ト大差ナシト云フ、

第十五、富樓那般若派

富樓那般若派ハ阿難陀底利達 ^xĀnanda-tīrtha ト云ヘル人ノ創唱スル所ニ係ル、〔彼レハ紀元千二百年頃生レ、阿難的濕伐兒 ^x〔アナンテシュワール〕ノ寺院ニ於テ教育ヲ受ケタリト云フ、彼レニ又^x〕彼^x種々ナル稱号アリ、或ハ摩杜婆 ^xMadhya 若クハ摩杜婆阿闍梨 ^xMadhvāchārya ト云フ、或ハ摩第耶曼地羅 ^xMadhya-mandira ト云ヒ、或ハ富樓那般若 ^xPārṇa-prajña ト云フ富樓那ハ滿、般若ハ智、故ニ富樓那般若ハ滿智ト云フナリ、蓋シ創唱者ヲ讚美シテ此名ヲ附スルモノナリ、此派ノ信者ヲ婆羅賀磨珊波羅陀因 ^xBrahmasampra-dāyins ト云フ、彼等ハ最モ南方印度ニ多ク、本ト婆伊濕那婆派ナレド、差々濕婆崇拜ニ近似スル所アリ、

富樓那般若派ハ自存ト依存ノ二諦ヲ立ツ、即チ二元論ニシテ商羯羅阿闍梨ノ一元論ニ反抗セリ、商羯羅ハ世界ヲ以テ迷妄トシ、個体精神ヲ以テ婆羅吸曼ト同一トシ、畢竟最上精神ノ一元ニ歸セリ、然ルニ富樓那般若ハ最上精神タル毗濕奴ト個体精神及ビ物質世界ハ根本的ノ差別ヲ有スルモノトシテ二元ニ歸セリ、彼ノ考察ニ據レバ、毗濕奴ハ最上精神ナリ、自存の實在ナリ、一切ノ不完全ヲ離レテ無限ノ優勝ナル性質ヲ有セルモノナリ、毗濕奴ハ服從ノ對象ニシテ個体精神ト異ナリ、人ニ服從サル、ノハ其服從スル人ト同ジカラズ、例ヘバ君主ト臣民ノ關係ニ於ケルガ如シ、若シ快樂ヲ求メ、苦痛ヲ避ク〔ル〕ヲ人生ノ目的トシ、敢テ主宰ノ地位ヲ得ント欲スルモノアラバ、彼レハ主宰ノ恩寵ヲ蒙ルヲ能ハズ、否寧ロアラユル悩害ヲ受クルニ至ラン、然ルニ自ラ劣等ノ位置ヲ取り、主宰ノ優勝ナルヲ認識セバ主宰ノ恩寵ヲ受クルヲ得、是故ニ吾人ハ〔最上〕主宰タル毗濕奴ニ服從セザルベカラズ、然ルニ服從ハ三法ヨリ



成ル、第一ハ烙印法、第二ハ命名法、第三ハ崇拜法、是レナリ、烙印法ハ那羅延天 *Narāyana* ノ兵器ヲ我身ニ烙印シテ以テ其紀念トナシ、收局ノ目的タル解脱ニ到達スルノ方便トスルヲナリ、那羅延天ハ婆羅賀磨 *Brahma* ノ異名ナレ氏、亦毗濕奴ト同一視セラル、コアリ、是故ニ富樓那般若ハ全ク那羅延天ヲ以テ毗濕奴ト同一視シテ此ノ如キ烙印法ヲ設ケタリ、命名法ハ子孫ニ「ケシャワ」 *Kesava* (乾利濕那ノ異名) ノ如キ名称ヲ附シ、以テ最上主宰ノ紀念トナスヲナリ、崇拜法ニ十種アリ、其中音声ヲ以テスルモノト、身体ヲ以テスルモノト、通感ヲ以テスルモノトノ別アリ、音声ヲ以テスルモノハ眞実、有益、親切、脩學ノ四法トス、身体ヲ以テスルモノハ施濟、防禦、保護ノ三法トス、通感ヲ以テスルモノハ、慈悲、景慕、信仰ノ三法トナス、合シテ十種ナリ、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

個體精神及ビ物質世界ハ依存ナレド、非實在ニアラズ、是故ニ畢竟二元ナリ、然レド富樓那般若ノ世界觀モ時アリテハ一元論ニ歸スルノ傾向アリ、彼オモヘラク、眞実ヲ云ヘバ非二元ナリ、毗濕奴ハ一切他ノモノヨリ優等ナルガ故ニ眞実ヲ云ヘバ之レト同等ナルモノナク、之レヨリ優等ナルモノナキナリト、其商羯羅阿闍梨ト抗論スルニ拘ハラズ、頗ル吠檀達派ニ近キ觀念アルヲ見ル、富樓那般若ハ又如何ニ個體精神ト物質世界ノ關係ヲ解釈セシカ、之レヲ詳悉スルヲ能ハザルハ遺憾ナリ、之レヲ要スルニ、彼レハ毗濕奴ヲ以テ最大ノ實在トシ、前ニ挙げタル服從ノ三法ヲ実行スレバ其寵愛ヲ得テ、輪廻ヲ解脱シ、人生收局ノ目的ニ到達スルヲ得ベシトセリ、此学派ノ人南方印度ニ多ク、或者ハ單ニ哲學者トシテ寺院ニ住セリ、前額ニ二箇ノ直線ヲ畫ク、藍摩奴闍ト同ジ、但々其色ハ白色ニアラズシテ赤色ナリ、其間ニ又一箇ノ黒線ヲ加フ、是レ毗濕奴ノ偶像ノ前ニアル燒香ノ炭ヲ以テ畫クモノナリ、

第十六、晒婆派

晒婆派ハ濕婆ヲ崇拜スル一派ニシテ所謂摩醯首羅論師、是レナリ、此学派ノ起原ハ詳ナラズ、ラッセン氏ハ濕婆崇拜ノ痕迹ハ歷山王遠征後マデ追考スルヲ得ト云ヘリ、(Ind. Alerth. Bd. II. S. 114) 然レド其証スル所未ダ薄弱ヲ免レズ、今之レヲ考フルニ、提婆ノ外道小乘涅槃論ニ二十種ノ外道ヲ列挙シ、摩醯首羅論師ヲ以テ第十五トセリ、提婆ハ龍樹ノ弟子ナリ、龍樹ノ時代ニ就イテハ異說多シト雖モ、姑ク紀元後百年頃生レテ六十歳マデ存命セリトセバ、提婆モ紀元後二世紀ノ末ノ人ナラン、果シテ然ラバ濕婆派ハ晚クモ紀元後二世紀ニハ已ニ之レアリタリ、殊ニ龍樹ガ濕婆派ノ世界觀ヲ養取シテ大乘教ヲ作為セントノ說ヲシテ眞ナランメバ、其起原ノ頗ル舊キヲ推シ知ルベキナリ、然レド濕婆派モ一旦ハ甚シク衰退セシナランガ、八世紀ニ至リテ商羯羅阿闍梨ガ之レヲ復興スルニ及ンデ再ビ、隆盛トナ

リ引續イテ今日ニ至「レ」リ、「晒婆派ニ少クモ」十數派〔四種〕ノ分派ヲ成セ「ア」リ、其中重要ナルモノハ
 第一、老陀羅派 Raudras……此派ハ三支〔又〕戟 Trisulaヲ前額ニ畫ク、三支〔又〕ハ造化、破壊、及び再生
 ノ記號ナリ、

第二、烏揭羅派 Ugras……此派ハ陀摩樓 Damaruヲ携フ、陀摩樓ハ神聖ナル大鼓ノ名ナリ、

第三、薄多派 Bhaktas……此派ハ隣伽 Lingaヲ前額ニ着ク、隣伽ハ即チ濕婆ノ記號ナリ、

第四、剎伽摩派 Jangamas……此派ハ隣伽ヲ頭上ニ着ク、

第五、波輪鉢多派 Pasupatas…此派ハ那拘利耆 Nakulisaノ創唱スル所ニシテ隣伽ノ記號ヲ身体ノ他ノ部分ニ畫
 ク、

第六、瑜伽派 Yoga………六哲学派ノ一タル瑜伽派モ亦晒婆派中ノ一分派ナリ、(第十章ヲ参着セヨ)

第七、波羅底耶〔毗〕闍那派 Pratyabhijna…此派ハ紀元十一世紀ノ始メニ生存セル阿毗那婆龜多 Abhinava Gupta
 ノ一派ニシテ之レヲ認識派ト称ス、

第九〔八〕、羅斯濕伐羅派 Rasēvaras…即チ水銀派ナリ、

第十〔九〕、檀慎派 Dandins………此派ハ杖ヲ携ヘ居ル乞食僧ノ一派ナリ、

第十一、十名檀慎派 Daś-nāmi-dandins…此派ハ十種ノ分派ヨリ成リ、商羯羅ノ四弟子ノ十弟子ノ名ヲ有スルモノナ
 リ、

第十二〔一〕、波羅摩巨婆派 Paramahansas…此派ハ單ニ婆羅賀磨ヲ冥想スルヲニ從事スルモノナリ、濕婆派ニシ
 テ何故獨リ婆羅賀磨ヲ冥想スルカ、未ダ考ヘ得ズ、

第十三^x (一)、阿瞿隣派 Aghorins ……此派ハ恐ルベキ厭フベキ苦行ニヨリテ濕婆ノ恩寵ヲ得ントスルモノナリ、又之レヲ阿瞿羅波陳派 Aghorapathins ト称ス、

第十四^x (三)、優突婆鉢護派 Urdhva-bâhus ……此派ハ片腕若クハ兩腕ヲ頭上ニ差上ゲ、幾年モ之レヲ繼續スルモノナリ、

第十五^x (四)、阿伽婆目緊派 Ākāśa-mukhins ……此派ハ常ニ首ヲ後方ニ向ケテ天ヲ睨ムモノナリ、

右ニ列挙セル十五^x (四) 種ノ分派ノ中哲学上趣味アルモノハ僅ニ第七第八第九ノ三派ニ過ギズ、今左ニ晒婆派ノ哲学ノ要領ヲ叙述セン、

晒婆派ハ三諦四法ヲ立ツ、三諦ハ第一ニ主宰 [pati]、第二ニ精神 [paśu]、第三ニ世界 [paśa] 是レナリ、精神ハ依存ニシテ世界ハ無智ナリ、故ニ主宰ヲ以テ第一トス、此三諦ハ之レヲ譬フレバ猶ホ主人ト家畜ト鉄鎖ノゴトシ、家畜ハ鉄鎖ヲ離ル、ニアラザレバ主人ニ歸スル能ハズ、此ノ如ク精神ガ主宰ニ歸シテ之レト合一センニハ世界ヲ離レザルヲ得ザルナリ、四法ハ第一ニ學問 jñāna 第二ニ法務 kriyā 第三ニ靜慮 yoga 第四ニ德行 charyā 是レナリ、法務ハ人生ノ目的ニ達スル (ニ) 必要ナレト、學問ナクシテハ成遂ゲラルベキニアラズ、故ニ學問ヲ以テ第一トシ、之レニ次グニ法務ヲ以テス、然レト又目的ニ達スルニハ冥想 (靜慮) ヲ要スルガ故ニ冥想 (靜慮) 之レニ次グ、冥想 (靜慮) モ実行ノ之レニ伴フナケレバ何等ノ價值モナキガ故ニ德行ノ之レニ次グ、此ノ如クニシテ晒婆派ハ三諦四法ヲ立テ、此レニ由リテ哲学組織ヲ成ス、晒婆派ハ [第一諦ノ主宰ハ] 濕婆 Śiva ヲ崇拜ス [ナリ]、濕婆ハ即チ主宰ナリ、即チ最上精神ナリ、已ニ解脱シタル個體精神ハ濕婆ノ神の性質ヲ分受スルヲ得レト、是等ハ自存的ノモノニアラズシテ、皆最上精神タル主宰ニ依存ス、主宰結果ノ性質ハ世 [界] ニ属スルヲ見ル、然ルニ世界ハ有智実ハ [有智実ハ] の四字ハ

削除すべきか―編者) 其各部分ノ井然秩序ヲ成ス處、全ク主宰ニ類似ス、是等ノ結果アルニヨリテ世界ハ有智實在ノ造成スル所ナルヲ知ル、主宰ハ蓋シ萬有作因ナリ、然レモ亦一切ノ衆生ノ作業ニ関セズト云フニアラズ、主宰ハ能ク各個ノ應報、方便、因縁等ヲ知ルモノナリ、主宰ノ全智ナルヲハ其一切ノ物ト同一「体」ナルヲ以テ証スベク、又無智ノ實在ガ物ヲ生ズルヲ能ハザルヲモ一証ナリ、ムリゲンドラ Mrigendra 云ハズヤ、「彼レハ一切萬物ノ造成者ナルガ故ニ全智ナリ、何ントナレバ、獨リ物及ビ物ノ方便、部分并ニ目的ヲ知ルモノ、ミ能ク物ヲ造成スト云フヲハ確定セル主義ナレバナリ」ト、然レモ反對者或ハ云ハン、吾人ハ姑ク主宰ガ自存的ノ造物者ナルヲ許容セン、然レモ彼レハ身体ヲ有セズ、然ルニ經驗ニ據ルニ、瓶等ノ如キ一切ノ結果ハ陶工等ノ如キ身体ヲ有セル生類ノ作為セル所ナリ、然レモ若シ主宰ガ身体ヲ有スルモノナラバ、吾人ト同ジク苦難ヲ免レズ、此ノ如クナルモハ全智全能ト謂フヲ能ハザルナリ、」ト、然レモ吾人ハ之レヲ否定セザルヲ得ズ、何ントナレバ、無形ノ精神モ身体ト合一シテ行動ヲ生ズレバナリ、若シ又假リニ主宰ガ身体ヲ有ストスルモ、反對者ガ云ヘル如キ缺點ト必ズシモ起ルモノニアラズ、主宰ハ決シテ物質ノ繫縛ト關係ヲ有スベキモノニアラザルガ故ニ、其身体ハ物質的ノモノナルヲ得ズ、唯モ純粹ナル勢用ノ身体ナルベキノミ、古典ニ據レハ主宰ノ身体ハ五種ノ讃誦ヨリ成ル、其文ニ云ク、

主宰ハ伊舍那 *Isāna* ヲ以テ其頭トシ、怛富樓沙 *Taipurusha* ヲ以テ其口トナシ、阿瞿羅 *Aghora* ヲ以テ其心臓トナシ、提婆彌婆 *Vāmadeva* ヲ以テ陰部トナシ、薩第烏闍他 *Sadyojāta* ヲ以テ其足トナス、

此ノ如キ身体ハ彼「レ」自身ノ意志ニヨリテ造成セラレタルモノニテ、吾人ノ身体ト同ジカラズ、即チ主宰五種ノ運用ノ原因ナリ、何ヲカ五種ノ運用トナス、第一ニ慈悲、第二ニ壅蔽、第三ニ殄滅、第四ニ保存、第五ニ發生、是レナリ、

第一諦ノ主宰ハ已ニ説明セリ、此レヨリ第二諦ノ精神ヲ説明セン、精神ハ常住不變ニシテ遍一切處ナリ、吾人ハ斫婆迦派ノ如ク、精神ヲ以テ〔身体ト〕同一ナリトスルヲ得ズ、何ントナレバ、他人ノ見タルモノハ記憶スルヲ能ハズト云ヘル諺ノ如ク、此見解ニ據ルキハ、記憶ノ何タルカヲ解釋スルヲ得ザレバナリ、然レモ又尼夜耶派ノ如ク、精神ハ知覺ニヨリテ認識スベキモノトスルヲ得ズ、何ントナレバ、若シ精神ガ認識セラルベキモノナラバ、又第二ノ認識者ナカルベカラズ、若シ是レモ認識セラルベキモノナラバ、猶ホ他ノ認識者ナカルベカラズ、此ノ如クニシテ無限退歩 ad infinitum regressus ヲ成スベケレバナリ、然レモ又闍伊那派ノ如ク有限トシ、佛教派ノ如ク無常トスルヲ得ズ、何ントナレバ、是レ空間若クハ時間ニヨリテ制限スベキモノニアラザレバナリ、然レモ又吠檀達派ノ如ク、精神ヲ唯一ナリトスルヲ得ズ、何ントナレバ、各種ノ應報ノ配當ハ數多ノ個性精神アルヲ証スレバナリ、然レモ又數論派ノ如ク、何等ノ作用ヲ有セザルモノトスルヲ得ズ、何ントナレバ、經典ニ云ヘルガ如ク若シ一切ノ繫縛ヲ脱シテ濕婆ト合一スルキハ常住無限ノ靈〔理〕觀及ビ作用ヲ有スベケレバナリ、晒婆派ニアリテハ精神ニ三種ノ別アリトス、第一ニ毗闍那捺伽羅 Vināṇakalā 第二ニ波羅々耶伽羅 Pralaya-kalā 第三ニ薩伽羅 Sakalā 是レナリ、第一ノ毗闍那捺伽羅ハ單ニ蔽遮 nala ノ規定ヲ受クルモノニテ、其業障ハ靜慮及ビ智識ニヨリテ抹撥セラル、第二ノ波羅々耶伽羅ハ蔽遮ト作法 Karman ノ規定ヲ受クルモノニテ、世界ノ破壞スルキニハ之レト共ニ破壞セラル、第三ノ薩伽羅ハ蔽遮、作法及ビ迷妄 māyā ノ規定ヲ受クルモノニテ、最劣等ノ地位ヲ占ム、第一ノ毗闍那捺伽羅ハ又分チテ〔已淨的・未淨的ノ二種トナス、前者ヲ〕已淨的〔沙摩波多伽樓沙〕 Samāptakalushā ト〔云ヒ、後者ヲ〕未淨的〔阿沙摩波多伽樓娑〕 asamapta-kalushā ノ二種トナス〔ト云フ、〕是レ染垢ノ滅盡セルト未タ然ラザルトニヨリテ區別セルモノナリ、其已淨的ノモノハ人類中最優等ニ屬シ、特異ノ權威ヲ有スベキモノニテ、濕婆ノ寵遇ニヨリ識自在 Vidyēśvaras 即チ知識

ノ主ノ地位ニ昇進スルヲ得、識自在ニ八種アリ、左ノ如シ、

識自在	
(一)	阿 難 多 Ananta
(二)	須 器 尸 摩 Sukshma
(三)	濕 薄 達 摩 Sivottama
(四)	猗伽涅多羅 Ekanetra
(五)	猗伽樓陀羅 Ekarudra
(六)	怛利牟栗底伽 Trimbhūṭika
(七)	室 利 健 達 Śrīkantiṭṭha
(八)	室 健 慎 Śikantiṭṭha

第二ノ波羅々耶伽羅モ亦分チテ二種トナス、〔一ハ〕蔽遮ト作法ノ成熟セルモノ、〔之レヲ薄婆伽婆陀婆耶〕pakṣvākāśa-dvaya ト〔云ヒ、一ハ〕未ダ成熟セザルモノ、〔之レヲ阿薄婆伽婆陀婆耶〕apakṣvākāśadvaya 〔ト云フ、〕是レナリ、前者ハ解脱スルヲ得レト、後者ハ細身ヲ有シ、諸趣ニ流轉シテ成劫ヨリ壞劫ニ至ル、換言スレバ解脱スルマデハ生々死々ヲ免レザルナリ、第三ノ薩伽羅モ亦分チテ二種トナス、其神位ニ昇進スルモノ、之レヲ薄婆伽樓婆 Pakṣvākālūsha ト云ヒ、其身体ヲ有シテ自己作法ノ應報ヲ受クルモノ、之レヲ阿薄婆伽樓婆 apakṣvākālūsha ト云フ、前者ハ其成熟セルノ故ヲ以テ濕婆之レヲ曼多羅 Mantas ノ百十八主ノ地位ニ昇進セシム、曼多羅ノ百十八主ハ左ノ如シ、

曼陀羅ノ百十八主

曼陀羅ノ百十八主	毗黎婆 Vireśa.....一	室利憐達 Srikarṇa一	盧陀羅 Rudras百
曼陀羅ノ百十八主	拘盧陀 Krodha八	曼陀鄰 Mandalins八	

後者ハ各自ノ作法ノ結果ニヨリ各種ノ身体ニ繫縛サレ、過去ノ應報ヲ享受シ、無限ニ流轉スルヲ免ザルモノナリ、是故ニ晒婆派ノ精神ヲ分類スレバ、總ベテ六種トナル、

精神	波羅々耶伽羅 Pralayākālā	毗闍那捺伽羅 Vijnānakālā	沙摩波多伽樓婆 samāplakalusha
		薩伽羅 Sakalā	阿沙摩波多伽樓婆 asamāplakalusha
			薄婆伽樓婆 pakvākalusha
			阿薄婆伽樓婆 apakvākalusha

第三諦ノ世界ハ即チ物質ナリ、物質ニ四種ノ別アリ、第一ニ蔽遮 mala 第二ニ作法 karma 第三ニ迷妄 māya 第四ニ強服 roḍha 是レナリ、蔽遮ハ精神ノ理觀及ビ作用ヲ壅蔽シ、且ツ其自發的感化力ニヨリリテ精神ヲ抑制スルモノニテ譬ヘバ猶ホ糠ノ米ニ於ケルガゴトク、又鏽ノ銅ニ於ケルガゴトシ、作法ハ應報ヲ希求スルモノ、為ス所ニシテ法ト非法ノ性質ヲ有シ、無限ノ連鎖ヲ成セリ、迷妄ハ壞劫ノ時ニ神靈ノ勢用トシテ將成のニ含有セラレ、成劫ノ時ニ發

現シ来タルモノナリ、強服ハ精神ヲ繫縛シテ之レヲ暗黒ニスル一種ノ勢用ナリ、強服ヲ以テ物質トスルハ比喩的ニ之レヲナスニ過ギズ、是レ強服ハ其実濕婆ノ勢用ニシテ自ラ物質ノ性質ヲ受クルヨリモ寧ロ物質ヲ管理シテ精神ヲ蒙蔽スルモノナリ、

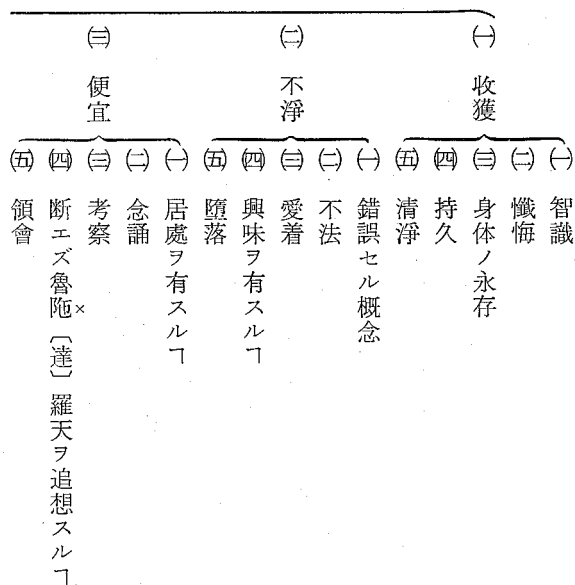
第十七、波輪鉢多派

濕婆崇拜派ノ一支派ヲ波輪鉢多 *Pāsupata* ト云フ、此派ハ濕婆ヲ波輪鉢底 *Pāśu-pati* (波輪ハ牛若クハ獸若クハ個體精神ノ義、鉢底ハ主宰ノ義) トシテ崇拜スルガ故ニ波輪鉢多ト称ス、波輪鉢底崇拜派ノ義ナリ、波輪鉢多派ハ那拘利奢 *Nakulīśa* ノ創設スル所ニ係ル、ト云フ、然レ氏那拘利奢ハ如何ナル人物ニシテ、如何ナル時代ニ生存セシカ、總ベテ詳ナラズ、阿難陀耆釐 *Ānanda-giri* ハ此派ヲ迦波利迦 *Kāpālika* ト称セリ、モニエル、ウヤルリヤムス氏ニ據レバ印度教ハ通例五大派ヲ云フ、第一ニ晒婆派 *Saivas* 第二ニ婆伊濕那婆派 *Vaiṣṇavas* 第三ニ娑屈多派 *Saktas* 第四ニ伽涅婆派 *Gānapatyas* 第四ニ修羅派 *Sauras* 即チ太陽崇拜派、然レ氏時アリテ又波輪鉢多派ヲ以テ第六トナスニアリ、(Monier Williams *Brahmanism and Hinduism*, p. 59.) 果シテ然ラバ波輪鉢多派ハ本ト晒婆派ノ一支派ニ過ギザルモ、亦印度教中最モ「頗ル」重大ナル一学派ト認識セラル、ヲ知ルベキナリ、支那訳ノ佛書中ニハ或ハ之レヲ塗灰外道ト云ヒ、或ハ之レヲ牛主外道ト云ヒ、或ハ又之レヲ獸主外道ト云ク、玄應ノ音義卷二十三(三十)ニ云ク、「波輪鉢多、此塗灰外道名也、遍身塗灰、髮則有ニ剃不剃、衣纔蔽形、但非ニ赤色、為レ異爾、事ニ魔醯首羅天一也、」ト、全二十五(八)ニモ亦同様ノ文アリ、但ニ波輪鉢多ヲ播輪鉢多ニ作ルノ差アルノミ、然ルニ俱舎光記卷九(四十)ニハ波輪鉢多ヲ以テ牛主外道トナス、其文ニ云ク、「播輪鉢多外道、此云ニ牛主、主謂天主、摩醯首羅天乘レ牛而行、故名ニ牛主、此外道字ニ彼天法、從レ彼為レ

名、故名ニ牛主^二、此外道受^下持頂上持^二一髮子^一、身体塗^レ灰^ト、然ルニ又唯識述記卷一本^(七十)ニ之レヲ獸主外道ト称セリ、云ク「有^二外道^一、名^二播輸^一〔鉢〕多^一、翻為獸主^一、如^下一瞿声別、目^二於牛^一、通名^二於獸^一但言^中牛主^上、未^レ善^二方言^一、非^二但與^レ牛而為^レ主^一、故如^二伏犧等^一」ト、此レニ由リテ之レヲ觀レバ、獸主外道ト云フハ其義全ク牛主外道ニ同ジ、恰モ瞿⁸⁰ハ原語ニテ牛ヲ意味スレ^レ、亦廣ク通ジテ獸類ヲ意味スルガ如ク、波輸ハ狹ク云ヘバ牛、廣ク云ヘバ獸ノ義ナルガ故ニ獸主外道ノ名アリ、是故ニ〔獸主外道ハ特ニ此派ヲ〕輕侮シテ附與セル名称ト見做スベキニアラザルナリ、然レ^レ波輸鉢底ハ個体精神ノ主宰、若クハ一切衆生ノ主宰ト訳スルヲ妥當ナリトス、之レヲ牛主若クハ獸主ト云フハ甚ダ適切ナラズト謂フベキナリ、〔波輸鉢多派ノ起原ハ未ダ詳ナラズ、然レ^レ其名ハ瑜伽論九十九^(十二)〕及ビ俱舍論九^(二十)ニ見ユ、輪伽論ハ弥勒菩薩ノ作ト称スト雖モ、是レ固ヨリ無着ノ依托ニ出デ、俱舍論ハ其弟世親ノ造ル所ニ係ル、此二氏ガ何ゾレモ波輸鉢多派ノ事ヲ云ヘルヲ見レバ波輸鉢多派ハ其頃已ニ一派ヲ成セルヲ疑ナシ、無着ハ紀元後四百八十五年ヨリ五百六十年マデ生存シ、世親ハ無着ヨリ少キ^一二十歳ナリキ、果シテ然ラバ波輸鉢多派ハ晚クモ紀元後六世紀ニ發達セルヲ知ルナリ、^{波輸鉢多^{×××}〔此〕派ハ主トシテ南方印度ニ蔓延セリ、}波輸鉢多派ハ八種ノ五事及ビ三種ノ法務ヲ以テ人生最上ノ目的即チ解脱ニ到達スルノ方便トナス、八種ノ五事ハ第一、收獲、即チ実行ノ結果ハ分チテ五種トス、智識、懺悔、身体ノ永存、持久、及ビ清淨、是レナリ、第二、不淨、即チ精神ニ関スル不幸ナル狀態ニモ亦五種アリ、錯誤セル概念、不法、愛着、興味ヲ有スル^一、及ビ墮落、是レナリ、第三、便宜ノ五種ハ居處ヲ用フル^一、念誦、考察、斷エズ魯[×]陋[×]〔達〕羅天^(即チ濕婆)ヲ追想スル^一、及ビ領會、是レナリ、第四、〔方處〕即チ修學者ガ教義ノ網要ヲ學ビ得タルノ後、智識ヲ増進シ、嚴戒ヲ厲行スベキ方處ニ五種アリ、心靈上ノ教師、洞穴、特殊ノ場處、燒熱地、及ビ魯[×]陋[×]〔達〕羅、是レナリ、第五、堅忍即チ欲望セル目的ニ到達スル

わが国最初の「印度哲学史」講義 (一)

マデ八種ノ五事中幾多ヲ忍耐スルヲニ五種アリ、區別、無區別、低誦、承諾、及ビ奉事、是レナリ、第六、洗滌、ニ五種アリ、即チ錯誤セル概念及ビ其他四種ノ不淨ヲ除去スルヲ、是レナリ、第七、入学ニ五種アリ、材料、適當ナル時期、礼式、偶像及ビ心靈上ノ教導者、是レナリ、第八、勢力ニ又五種アリ、心靈上ノ教導者ニ奉事スルヲ、知力ノ明晰ナルヲ、苦樂ニ折^x〔打〕勝ツヲ、法即チ功德及ビ慎重、是レナリ、是レヲ八種ノ五事トナス、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

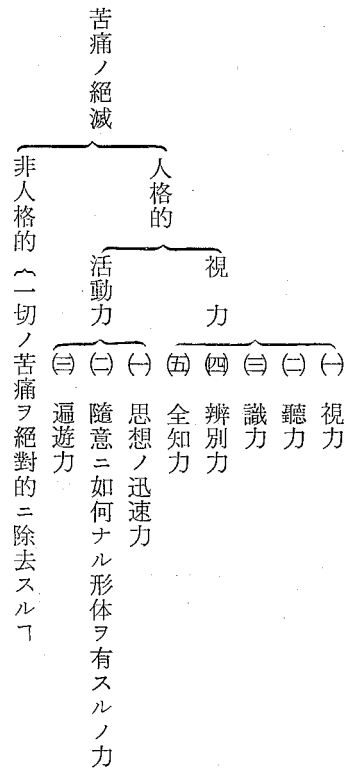


八種ノ五事

(八) 努力					(七) 入学					(六) 洗滌					(五) 堅忍					(四) 方處				
(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
慎重	法	苦楽ニ打勝ツ	知力ノ明晰ナル	心靈上ノ教導者ニテ奉事スル	偶像	礼式	適當ナル時期	材料	五種ノ不淨ヲ除去スル	奉事	承諾	低誦	無區別	區別	魯陀〔達〕羅	燒熱地	特殊ノ場處	洞穴	心靈上ノ教師					

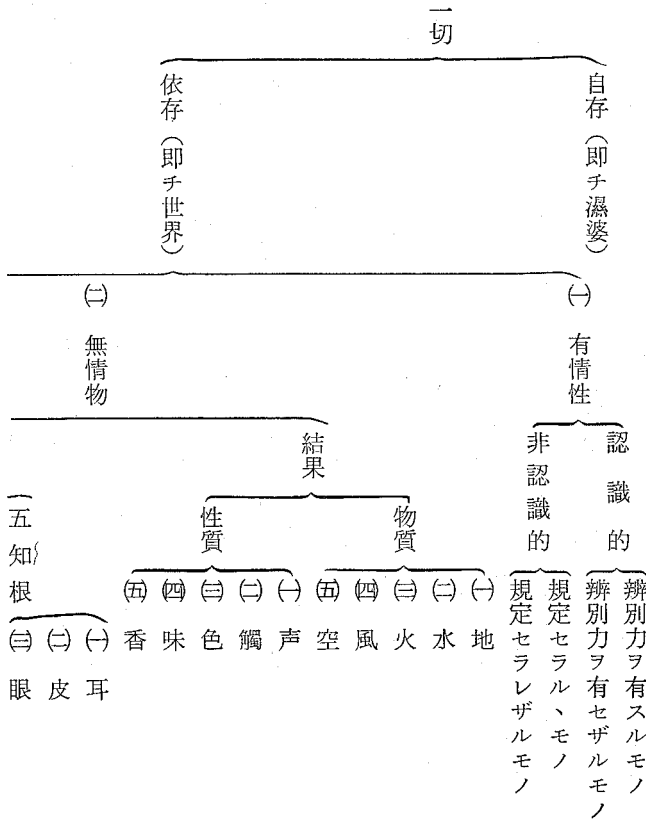
三種ノ法務ハ五種ノ不淨ヲ除去スルガ為メ、毎日禮法ニ従ヒテ食物ヲ得ル方法ニテ、第一ニ乞食、第二ニ報謝ニヨリテ生活スルヲ、第三ニ偶然ノ供給ニヨリテ生活スルヲ、是レナリ、

波輪鉢派ニアリテハ苦痛ノ絶滅ニ人格的ト非人格的トノ二種アリトス、非人格的の絶滅ハ一切ノ苦痛ヲ絶對的ニ除去スルヲ謂ヒ人格的の絶滅ハ主トシテ視力ト活動力ヲ除去スルヲ謂フ、視力ハ一箇ノ勢力ニ過ギザレハ、其對象ノ駁雜ナルノ故ヲ以テ視力ノ外尚ホ聽力、識力、辨別力、全知力ヲモ含有スルモノトスベシ、然レハ若シ分別シテ之レヲ云ヘバ、視力ハ一切ノ見ルベク、觸ルベク、感ズベキ對象ニ於ケル認識ナリ、此ノ如キ認識ハ其對象ガ知覺スベカラザルト、遮斷セラル、ト遼遠ナルトニ拘ハラザルナリ、次ギニ聽力ハ一切有節の音声ニ関スル主義ノ認識ナリ、次ギニ識力ハ一切ノ思想ニ関スル主義ノ認識ナリ、次ギニ辨別力ハ本文及ビ其意義ニ違ハザル經典ノ全組織ノ認識ナリ、終リニ全知力ハ一切ノ事項ニ関スル眞実ナル主義ノ認識ナリ、合シテ之レヲ視力ト云フ、活動力モ亦一箇ノ勢力ニ過ギザレハ、亦三種ノ勢力ヨリ成ル、第一ニ思想ノ迅速力、第二ニ隨意ニ如何ナル形体ヲモ有スルノ力、第三ニ遍遊力、是レナリ、思想ノ迅速力ハ比類ナキ速度ヲ發動スベキ能力ナリ、次ギニ如〔何〕ナル形体ヲモ有スベキ力ハ無限ノ有機体中ニ於テ其類似セル機関モ、類似セザル機関モ作法ノ結果ニ拘ハラズ、其好ム所ニ隨ヒ、之レヲ應用スベキ能力ナリ、次ギニ遍遊力ハ假令ヒ之レヲ應用セザルモ亦此ノ如キ優等ノ機関ヲ有スベキ能力ナリ、合シテ之レヲ活動力ト云フ、



或ル終局ノモノニ從屬スル一切ノ結果即チ依存ハ分チテ之レヲ三種トナス、第一ニ有情性、第二ニ無情物、第三ニ有情物、是レナリ、有情性ハ有情物ノ属性ニシテ認識のト非認識のトノ區別アリ、認識の有情性ハ細別シテ辨別力ヲ有スルモノト然ラザルモノトノ二種トナス、非認識の有情性ハ有情的精神ノ對象ニヨリテ規定セラル、ト、規定セラレザルトノ別アリ、無情物ハ其レ自身ハ無意識ニシテ有意識ノモノニ從屬シ、分チテ結果ト原因トノ二種トナス、結果ト称スル無情物二十種アリ、即チ地水火風空ノ五大ト之レニ屬スル声觸色味香ノ五性ヲ謂フ、原因ト称スル無情物ニ十三種アリ、即チ五知根、五作根及ビ三種ノ内面的機關ヲ謂フ、三種ノ内面機の関ハ各々其官能ヲ有ス、第一ハ確定ノ機關、第二ハ我ト非我トヲ迷妄のニ同一視スルノ機關、第三ハ決定ノ機關、是等機關ノ名称ハ未ダ考ヘ得ズ、有情物ハ輪廻ヲ免レザルモノニテ、是レニ肉慾ヲ有スルモノト肉慾ヲ有セザルモノトノ二種アリ、肉慾ヲ有スルモノハ即チ有機体ト機關トヲ有スル精神ナリ、肉慾ヲ有セザルモノハ即チ有機体ト機關トヲ有セザル精神ナリ、是等一切ノ結

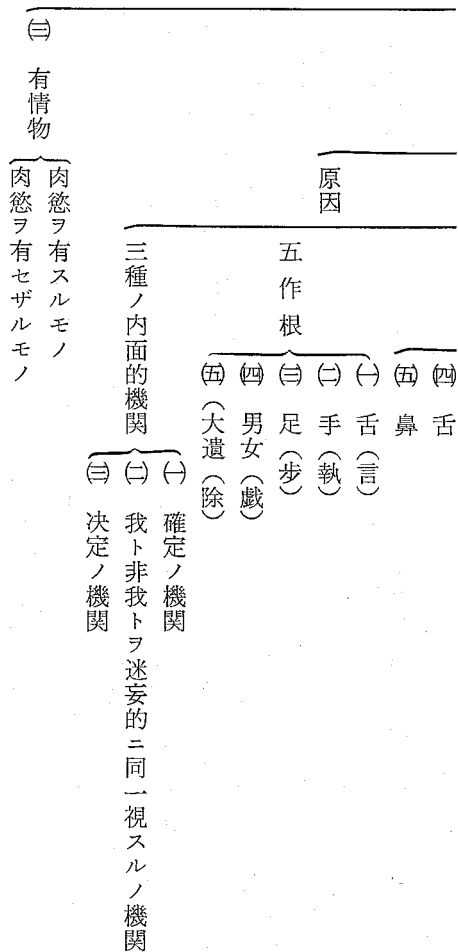
觀ヲ表ニスレバ左ノ如シ、



世親ノ俱舍論卷九(二十)ニ波輪鉢多派ト共ニ般利伐羅勾迦派 Parivāṣika ヲ挙グ、此派ハ何人ノ創唱スル所ナルヤヲ

第十八、波利伐羅勾迦派

解脱ハ智〔知〕力ニヨリテ我精神ヲシテ最上精神タル濕婆ト合一セシムルニアリ、然ルニ此ノ如キ合一ニ二種アリ、一ハ作用ト相伴フモノ、一ハ作用ト相伴ハザルモノ、其作用ト相伴フモノハ、低誦、考察等ニヨリテ達シ得ラルベク、其作用ト相伴ハザルモノハ意識等ト称スルナリ、



詳ニセズト雖モ、亦婆伊濕那婆派ノ一支派ニシテ晩クモ紀元後六世紀ニ發達セルモノナルヲハ世親之レヲ論ズルニヨリテ知ルベキナリ、波利伐羅勾迦ハ支那訳ノ佛書ニ般利伐羅勾迦、波利咀羅拘迦、簸利婆羅闍迦若クハ般利伐羅多迦ニ作ル、皆波利伐羅勾迦ノ訛傳ナリ、波利伐羅勾迦派ハ蓋シ家族ヲ捨テ故郷ヲ離レ、遍ク歴遊スル乞食僧ノ一派ナリ、故ニ古來訳シテ遍出ト云ヒ、普行ト云ヒ、或ハ出家外道ト云ヘリ、頭髮ハ盡ク剃リテ頂上ニ少髪ヲ殘シ、衣ハ纔ニ身体ヲ蔽ヒ、染ムルニ赤土ノ色ヲ以テセリ、俱舍光記卷九(四十五)ニ云ク「般利伐羅多迦外道、此云ニ遍出、即顯ニ出家義、是出家外道、受持執ニ三杖、行擬安衣服鉢等物上、并剪鬚髮、無義苦行、」ト、此レニ由リテ之レヲ觀レバ、此派ノ宗徒ハ三杖ヲ携ヘテ步行シ、交叉シテ之レヲ地上ニ立テ、總ベテ衣服鉢等ノ如キ隨身ノ必要物ヲ安置スルノ用ニ供スルナリ、(三杖ノ事俱舍光記卷六、十八左ニ見ユ)又唯識述記本(七十八)ニ云ク「有ニ外道、名ニ波利咀羅拘迦ニ翻為ニ遍出、遍能出ニ離諸俗世間、即出家外道之類」ト、又玄應ノ音義卷二十四(八)ニ云ク「般利伐羅勾迦、亦言ニ簸利婆羅闍迦、此云ニ普行、事ニ那羅延天、頂留ニ少髮、餘盡剃去、內衣在レ体、纔蔽ニ形醜、其衣染以ニ赤土之色」ト、是等ノ傳説ノ外吾人ガ波利伐羅勾迦派ニ就イテ知り得ベキ源泉ハ未ダ之レヲ發見スルヲ得ザルナリ、アイテル氏ハ此派ヲ以テ晒婆派ニ属スルモノトセリ、*(Hand-book of Chinese Buddhism, 2nd ed. p. 116)* 然レモ那羅延天ハ濕婆ニアラズシテ毗濕奴ナルガ故ニ是レ全クアイテル氏ノ誤解ニ出ヅルモノト謂フベキナリ、

第十九、波羅底耶毗闍那派

波羅底耶毗闍那派 Pratyahijñā ハ晒婆派ノ一支派ナリ、訳シテ之レヲ「復」認識派ト称ス、是レ此派ハ濕婆ヲ「復」認識スルヲ以テ究竟解脱トスレバナリ、波羅底毗闍那派ハ何人ノ創設スル所ナルヲ知ラズ、然レモ、摩陀婆 Madhava

ノ哲學纂論 Sarva-darsana-samgraha 中ニ阿毗那婆龜多 Abhinava Gupta ノ注ヲ引イテ此派ノ學說ヲ叙述スルニヨリテ之レヲ考フルニ、本ト波羅底耶毗闍那經 Pratyabhiñāsūtra ト稱スル經文アリテ後、阿毗那婆龜多ナルモノ之レガ注解ヲナセシモノト見ユ、果シテ然ラバ阿毗那婆龜多ハ此派ノ鼻祖ニハアラザルベケレト、亦商羯羅ノ吠檀多派ニ於ケルガ如ク、一個ノ有力ナル祖述者ナルヲ疑ナシ、ビユーレル氏ニ據レバ阿毗那婆龜多ハ十一世紀ノ初ニ生存セル人ナリ、波羅底耶毗闍那派ノ教義ノ要領ハ左ノ如シ、

第一、總論……濕婆ハ無間ノ自己炫耀、福祉、及ビ自存ノ實在ナリ、毗濕奴、毗隣支(波羅質磨ノ異名)及ビ其他ノ諸神ハ濕婆ノ神聖ナル性質ノ幾分カラ得テ始メテ神タルヲ得、彼等ハ假相世界ヲ超過スト雖モ、尚ホ無限ノ迷妄ニ拘惹スルヲ免レズ、是故ニ吾人ハ濕婆ヲ以テ最上ノ實在トナシ、之レヲ復認シ、之レガ奴隸トナリ、以テ自存若クハ絕對ノ如キ其神聖ナル性質ヲ享受スルハ即チ人生終局ノ目途ナリ、濕婆ハ其奴隸ノ欲望スル所ニ從ヒ、如何ナルモノモ惠与スルモノナリ、然ラバ濕婆ハ如何ナル處ニ於テ之レヲ認識スルカ、是レ他處ニ於テスルニアラズシテ、我レニ於テスルナリ、己ニ之レヲ復認スレバ我レハ即チ魔醯首羅ナリ、一切ノ福祉ハ此ノ如キ復認ニヨリテ得ラル、若シ自ラ此ノ如キ復認ヲ成シ得タル以上ハ他人ヲシテ同一ノ境界ニ進マシムルノ希望アリ、如何ナル人モ神聖ナル性質ノ如何ヲ了解セバ最優等ノ應報ヲ受ケ、〔是レマデ〕輪廻ヲ免レザル精神モ究竟ノ目途ニ到達スルヲ得ベキナリ、

第二、精神ノ迷妄……精神ハ自己炫耀ノ性質ヲ有シ、神ト同一體タルガ故ニ幾多ノ勤勞ニヨリテ之レヲ復認スルガ如キ必要アルヲ見ズ、然レモ精神ハ幾分カ宇宙迷妄ノ感化ヲ免レザルモノナルガ故ニ認識力及ビ活動力ノ擴充ニヨリテ充分ノ復認ヲ成サシムルヲ得ズ、是故ニ自然ノ人ニアリテハ自己ハ神的光耀ノ一部分ニ過ギザレト、見識ヲ有スル人ニアリテハ其全部ヲ享有スルヲ得、此自己ハ認識力ト活動力ヲ有スルガ故ニ神タラザルベカラズ、其認識力ト活動力ヲ

有スル丈其レ丈自己ハ主宰ナリ、

第三、濕婆ト世界ノ關係……濕婆ハ其光耀アル智識ニヨリテ一切周圍ノ物象ヲ照映ス、是ニ於テカ始メテ青黃等ノ如キ光明アリ、之レ皆物象ガ光明ニ付与セル彩色ノ駁雜ナルヨリ起ル、其実主宰ハ一切空間時間及ビ形体ノ際限ヲ超過シ、數量モ差別モ有セズ、彼〔レ〕ハ純粹ナル智識ナリ、自己炫耀ナリ、発現者ナリ、若シ其異名ヲ挙グレハ或ハ之レヲ智識的元精ト云ヒ、或ハ無間ノ認識〔識〕ト云ヒ、或ハ自発ノ直覺ト云ヒ、或ハ福祉ノ集合セル實在ト云ヒ、或ハ最上ノ權勢ト云フ、之レヲ要スルニ、濕婆ハ最上實在ニシテ一切ノ物象ハ其智識ノ光耀ヲ受ケテ始メテ差別ノ世界ヲ成スモノナリ、

第四、濕婆ノ絕對意志……世界ハ主宰ノ絕對意志ニヨリテ成ル、若シ主宰ガ瓶若クハ布若クハ物ノ〔其他〕物象ノ形体ヲ取リテ世界トナサント欲セバ其活動力ニヨリテ世界ニ造化セラル、世界ノ發達ハ動機ナキ無情物若クハ非神聖的智識ノ然ラシムル所ニアラズ、陶工ガ瓶ヲ作為スルニハ必ズ原料ト器具ヲ要スレハ、濕婆ノ世界ヲ造化スルハ猶ホ奇術家ガ單ニ意志力ニヨリテ木若クハ瓶ヲ發生スルガ如ク、絕對意志ノ結成〔果〕ニ出ヅルナリ、

第五、解脱……過境的自己ハ即チ濕婆ナレハ、唯々其迷妄ヲ免レザルガ故ニ、無限ニ輪廻シテ作法ノ結果ヲ受ク、若シ學術ニヨリテ其神聖ノ性質ヲ認識シ、純粹ナル智識タルヲ得バ、是ニ於テカ、始メテ人生終局ノ目途タル解脱ニ到達シタルナリ、已ニ解脱セルモノハ恰モ繫縛ヲ脱却セル濕婆ノ如ク、一切ノ認識セラルベキモノヲ自己ト同一ナリトシテ認識スレハ、他ノ未ダ解脱セザルモノハ無限ノ分殊ヲ含有セリ、

第二十、羅斯濕伐羅派

摩陀婆ノ哲學纂論ニ羅斯濕伐羅派 *Rasēśvara* ヲ以テ第九トセリ、羅斯濕伐羅派ハ晒婆派ニ屬スル一分派ニシテ、又水銀派ト稱ス、此派ハ何人ガ何ノ時代ニ創設セシ所ナルカ、吾人ハ何等ノ歴史の事實ヲ有セズ、此派ハ水銀ニヨリテ生命ヲ永遠ニ保持シ、命終ヲ待タズ、現在ニ於テ解脱セントスルモノナリ、水銀ハ吾人ヲシテ輪廻ノ彼岸ニ達セシムルモノトスルガ故ニ、之レヲ彼岸〔擾^x〕与 *pārada* ト云ヘリ、甚シキニ至リテハ水銀ト最上自己（即チ濕婆）トヲ同一視シ、〔之レヲ水銀自在天 *Rasēśvara* ト稱シ〕水銀ヲ侮辱スルモノハ神靈ヲ冒瀆スルモノニシテ永遠ニ罪障アリトセリ、其水銀ニヨリテ延命ヲ企圖スルガ如キハ支那ノ道家ガ漢魏ノ頃丹ヲ煉リテ延命ノ藥ヲ求メタルニ類セリ、〔抱朴子對俗篇ニ云ク「凡草木燒^レ之、即燼而丹砂、燒^レ之成ニ水銀^一、積變又還成ニ丹砂^一、其去ニ凡草木^一亦遠矣、故能使^レ人長生^一、神僊獨見ニ此理ニ矣」ト、其水銀ヲ以テ延命ノ効アルモノトスル^一、以テ証スベキナリ、〕西洋ニモ十三世紀ノ頃ニ當リ、亞刺比亞ノゲルベル〔Gerber〕氏ノ煉金術 *Alchemie* ヲ傳ヘ、獨逸ノアルベルト、ボルステット *Albert von Bollstädt*（千百九十三年乃至千二百八十年）英國ノローヂャ、ベーロン *Roger Bacon*（千二百十四年乃至千二百九十四年）西班牙ノライムンドス、ル、ス *Raimundus Lullus*（千二百三十五年乃至千三百十五年）等皆煉金術ヲ以テ名アリ、是等煉金家ハ劣等ノ金屬ニ或ル少量ノ物質ヲ加ヘテ「智者ノ石」*Stein der Weisen* ヲ得ヘ^一ヲ企圖シ、若シ「智者ノ石」ヲ得バ以テ延命ノ藥トナスベシト思惟セリ、〔*Herman Kopp, Entwicklung der Chemie in der neueren Zeit. S. 16-18.*〕或ハ〔煉金術ハ〕埃及土ノヘルメス、トリスメギストス *Hermes Trismegistos*（名神）ニ淵源スト云フト雖モ、其言固ヨリ取ルニ足ラズ〔ザルナリ〕羅斯濕伐羅派ハ或ハ〔世界ノ〕煉金家ノ鼻祖ニアラザルカ、

支那ノ道家及ビ亞刺比亞ノ煉金家ハ何ゾレモ印度ヨリ煉金術ヲ傳ヘタルニアラザルカ、吾人ハ未ダ之レヲ確定スルヲ能ハズ、姑ク疑ヲ存センノミ、羅斯濕伐羅派ガ「解脱ハ智識ニヨリ、智識ハ研究ニヨリテ成ル、而シテ研究ハ唯々健康ノ身体ニ於テノミ出来得ベシ」ト云ヒテ健康ナラザレバ智識ハ得ベカラズトスルハ羅甸ノ諺ニ「健康ノ心意ハ健康ノ身体ニアリ」 Mens sans in corpore sans ト云ルト同一意ナルハ亦奇異ナル暗合ト謂フベキナリ、

〔第廿一〕 婆伽婆多派

婆伽婆〔多〕派 Bhagavata ハ婆伊濕那婆派ノ一支派ニシテ薄伽梵歌 Bhagavadgita 及^ニ薄伽梵富蘭那 Bhavagad-puranas ヲ以テ經文トスルモノナリ、薄伽梵歌モ薄伽梵富蘭那モ共ニ摩訶婆羅多 Mahābhārata (大戦争ノ義) ト称スル有名ナル詩篇中ノ一節ニシテ其薄伽梵 (Bhagavat) ト云フハ最高者若クハ有德者ノ義ニテ即チ訖利濕那ヲ意味スルナリ、其事タル、佛者ガ釈迦及ビ其他ノ佛陀ニ尊称ヲ付与シテ薄伽梵ト云フト同ジ、玄應ノ音義卷三(右)ニ云フ「婆伽婆、舊云三有大功德、至聖之名、正言三薄伽梵」、薄伽此譯云德、梵此言成就義、衆德成滿、名三薄伽梵」、又此一名、總攝三衆德、餘即不爾、故諸經首皆置此名、」ト、又慧琳ノ音義卷一(左)ニ云ク「如来尊号、有三無量名、略而言之、有三其六種、薄伽梵、是總稱也、義曰、衆德之美、尊敬之極也、古譯為三世尊、世出世間、感尊重敬、」ト、薄伽梵ノ義ハ佛教ニ於ケルト異ナラザルナリ、此派ハ婆伊濕那婆ニ属スレ^レ、純粹ナル婆伊濕那婆派ニアラズシテ僧徒、瑜伽、吠檀多等ノ各哲学派ヲ調和セントスル一種ノ折衷派ナリ、其起原ハ得テ詳ニシ難シ^レト雖モ、薄伽梵歌ノ著作ハ「古來毘耶婆 Vyāsa (即チ廣博仙人) ト称スト雖モ、信ズルニ足ラズ、毘耶婆ハ本ト編輯人ノ義ニ過ギザレバナリ、然レ^レ其人ハ」蓋シ婆伊濕那婆派ニ属セル一個ノ婆羅門ニシテ「ナリシナラン、其時代ニ就イテ異說多ク」或ハ紀元後

第一世紀ニ生存セリトシ、或ハ第二世紀、或ハ第三世紀或ハ尚ホ之レヨリ後ニ生存セリトス、然レモ何ゾレニシテモ「今ヨリ」其千數百年前ノ人タルヤ疑ナキナリ、其教義ハ全ク各学派ノ折衷ニシテ獨得ノ創見ナキガ故ニ特ニ叙述スルノ價值アルモノニアラザルナリ、

第十五章 印度哲學ノ總評

吾人ハ優波尼沙土以來印度ニ起レル各学派ノ起原主義及ビ沿革等ヲ研究セリ、今其重要ナル学派ノ數ヲ擧グレバ二十有八、若シ建立淨論、不建立無淨論、流出論等ノ如ク、畧述セルモノ、及ビ各学派ノ分派ヲ併セテ之レヲ算フルハ百數十派ニ下ダラス、其觀念ノ駁雜ナル、思想ノ豊富ナル、之レヲ希臘ニ比スルモ、決シテ遜色アリトセズ、服水論師ノターレス氏ニ似タル、火論師ノヘラクライトス氏ニ似タル、風仙論師ノアナキシメ子ス及ビデオゲ子ス二氏ニ似タル、已ニ第十四章ニ之レヲ叙述セリ、或ハ云フ、佛教ノ始メテ支那ニ入リタルハ紀元後六十五年ナルガ故ニ、支那訳ノ佛書ニ是等各種ノ哲学派ノ事ヲ載スルモ必ズ「シモ」希臘ノ如ク紀元前數百年ニ起レリトスルヲ得ズ、寧ロ佛書ノ支那ニ入リタル頃ノ学派ト見做スヲ妥當ナラント、然レモ支那ニ傳ヘタル佛書ハ盡ミク其傳ヘタル頃ニ成リシモノニアラズ、支那ニ傳ヘタル以前ヨリ印度ニ行ハレタルモノ、多キニ居ルナリ、殊ニ「アイタレヤ、アーラニヤカ、ウパニシヤド」(二、四、一及「ビ」三)ニ云ク「彼レ(即チ毗濕婆)オモヘラク、余ハ世界ヲ發生スベキカト、乃チ世界ヲ發生セリ、天水ト光明ト合死物ト地水ト是レナリ」ト、服水論師派ノ根據、實ニ此ニアリ、又摩菟ノ法典ノ初メニモ太初唯々水アルヲ云ヘリ、然ラバ服水論師派ノ説豈ニ後世ニ出ヅルモノナルベケンヤ、「チヤドヂヤ、ウパ

ニシヤド」(六、二、三及ビ四) ニ云ク「其物オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生成^x〔長〕スベキカ、乃チ火ヲ發生セリ、其火オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生長スベキカ、乃チ水ヲ發生セリ、云云、水オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生長スベキカ、乃チ地(即チ食物)ヲ發生セリ」ト、火論師派ノ根據實ニ此ニアリ、「タイツチリヤカ、ウパニシヤド」(二、一) ニ云ク「其自己(即チ婆羅吸曼)ヨリ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ風ヲ生ジ、風ヨリ火ヲ生ジ、火ヨリ水ヲ生ジ、水ヨリ地ヲ生ジ、地ヨリ木ヲ生ジ」云云ト風仙論師派ノ根據蓋シ「亦」此ニアルナラン、此レニ由リテ之レヲ觀レバ、服水論師派、火論師派、風仙論師派等ノ起リタルハ決シテ後世ノ事ト断定スルヲ得ズ、若シ希臘ノ哲学ニ先ツナカリシナラバ大低彼レト同時代ナリシナラン、希臘ニロイキップス及ビデモクトス二氏ノ原子論アレバ印度ニモ亦勝論派ノ原子論アリ、此兩者ガ多少ノ差違點ヲ有スルニ拘ハラズ、如何ニ相類似スルヲ甚シキカハ已ニ第九章第十七節ノ末ニ詳論セリ、希臘ニ犬儒学派及ビ「ストア」学派ノ如ク禁慾主義ヲ取ルモノアレバ印度ニハ闍伊那派及ビ瑜伽派ノ如ク、一層嚴酷ナル禁慾主義ヲ取ルモノ少シトセズ、希臘ハ「ニ」「チレ子」学派及ビエピクルス学派ノ如ク快樂主義ヲ抱クモノアレバ、印度ニハ先ニ婆訶斯波底派 *Bāṭhaśāpatya* 後ニ旃婆迦派 *Cīarvāka* アリテ恰モ之レト對立セリ、若シ希臘ニソクラテス氏ノ如ク専ラ倫理ノ一事ヲ研鑽セシモノアルヲ云ハハ、印度ニハ數多ノ戒律ヲ設ケテ一代ヲ矯正シタル釈迦アルヲ忘ルベカラズ、若シ又ブラトン氏ノ如ク其「甚」深微妙ノ觀念〔論〕ヲ主張スルモノアルヲ云ハハ、印度ニ婆達羅耶耶 *Bādarāyana* ノ如ク、ヘーゲルノ世界觀ニモ優レル絶大ノ唯心論ヲ主張スルモノアルヲ思ヘ、希臘ニアリストテレス氏出デ、彼國ノ哲学ヲ大成スルアレバ、印度ニハ商羯羅阿闍梨 *Śaṅkarācārya* ノ印度固有ノ哲学ヲ大成シ、絶大ノ感化ヲ及ボシ、遂ニ佛教ノ痕迹ヲシテ印度ノ中央ニ絶タシムルニ至ルアリ、若シ又アリストテレス氏ガ論理ヲ發明セシヲ以テ希臘ニ特異ナリトセバ、印度ニハ氏ニ先チテ已

ニ喬答摩 Gautama ナルモノ、論理ヲ発見シ、數論派、勝論派、佛教派等皆沿襲シテ之レヲ應用セリ、否彼レアリス
トテレス氏ハ果シテ論理ノ觀念ヲ印度ニ傳フルニアラザルカ、歴史大王ノ遠征ハ幾分カ印度ノ思想ヲ希臘ニ引入スル
ノ端緒トナリタルニ、氏ハ恰モ其時代ノ人ニシテ歴山大王ノ師ナリキ、氏ヨリ先キハ正式論理ニ類スルモノ、絶エテ
希臘ニ之レナク、氏ニ至リテ始メテ之レアリ、是故ニ歴史の事實ノ確証トスベキモノナキモ、氏ガ多少論理ノ觀念ヲ
印度ヨリ得タルニアラザルカノ疑惑ハ容易ニ氷積スルヲ能ハザルナリ、(第八章第四節)
希臘ノ哲学ト對立シテ毫モ遜色アルモノニアラズ、エルドマンチエレルユーベルウエヒ諸氏ノ如キ獨逸ノ哲学史家ハ
獨リ希臘ノ哲学ノミヲ以テ純粹ナル智識の探究ヲ主トセルモノトシテ特ニ之レヲ尊重シ、東洋ノ哲学ハ一般ニ宗教的
觀念ヲ混同セルモノトシテ痛ク之レヲ輕侮スルノ傾向アレハ、是レ彼等ガ印度哲学ニ於ケル智識ノ甚ダ薄弱ナルニ因
由セズンバアラズ、印度哲学ガ如何ホド宗教的觀念ヲ混同トスルモ、其哲学上ノ價值ハ之レガ為メニ消滅スル
モノニアラズ、然ルニ吾人ガ尼耶派、僧侶派、衛世師派、斫婆迦派等ノ哲学組織ノ如何ヲ考察セバ何等ノ宗教的觀
念ヲモ混同スルモノニアラズ(シテ)、皆以テ純粹ナル智識の探究ト見做スヲ得ベキモノナリ(ルヲ知ル)、若シ又之
レト同時ニ希臘ノ哲学モ亦必ズシモ「多少ノ」宗教的觀念ヲ混同セズト云フヲ得ザルヲ思ハミ、彼等ノ断定ガ確實ナ
ル根柢ヲ有セザルヲ知(見)ルニ足ラン、次ギニ吾人ノ注意ヲ惹クハ、希臘ノ哲学ニ比較スベキモノナキ、印度ノ哲
学派、即チ印度ニ特異ナル哲学派、是レナリ、即チ地論師派、口力論師派、時論師派、方論師派、無因論師派、声顯
論師派、声生論師派等ノ如キハ獨リ印度ノミニ起リテ他國ニ於テ之レニ類似スルモノアルヲ聞カズ、此ノ如ク印度ニ
特異ナル哲学派アル以上ハ益々印度哲学ノ研究スベキ充分ノ價值アルヲ証スルニ足ルナリ、

印度ノ哲学派、數多アリト雖モ、若シ盡ミク其主義ヲ研究シ來タラバ、其間ニ幾多ノ共通ノ點アルヲ発見セン、他語

ヲ以テ之レヲ云ヘバ、各哲学派ガ其組織ヲ異ニスルニ拘ハラズ、自ラ同様ノ性質ヲ帶ブル所アルヲ認識セン、此點ニ於テハ希臘哲学ハ頗ル印度哲学ニ異ナリト謂ハザルヲ得ズ、希臘哲学ニアリテハ各種ノ世界觀ハ何等ノ著シキ共通ノ點ヲモ有セズ、彼等ガ相互ニ思想上ノ感化ヲナセルコトハ固ヨリ疑ヲ容ルベキニアラザルモ、一箇ノ組織ヲ成セルモノハ必ズシモ他ト同一ノ性質ヲ有スルヲ要セズ、即チ名自ハ各自ノ特色アルヲ失ハズ、然ルニ印度哲学ニアリテハ幾多ノ點ハ如何ナル組織ニモ共通ニシテ実ニ千變一律ノ觀ナキニアラザルナリ、今左ニ共通ノ點ヲ列举センニ、

第一、吠陀經ノ尊信……佛教派ヲ除クト外一切ノ印度哲学派ハ吠陀經ノ証典タルコトヲ否定セズ、寧ロ吠陀經ヲ引イテ自家ノ學說ヲ強ウセントセリ、實ニ吠陀經ノ印度哲学派ニ於ケルハ、猶ホ和漢ノ儒者ガ四書五經ヲ尚ビ、耶穌教徒ガ新舊約全書ヲ重ンジ、同々教徒ガ格闘ヲ信ズルガゴトク、証典トシテ絶大ノ權勢ヲ有セリ、就中數論派、勝論派等ノ如キハ嘗ニ吠陀經ト親密ノ關係ヲ有セザル而已ナラズ、反リテ吠陀經以外ニ旗幟ヲ揚グルモノニ似タリ、然レモ尚ホ未ダ全ク吠陀經ヲ棄擲スルニ至ラザルナリ、殊ニ迦比羅ハ吠陀ニ無定、無極、不淨、退失、優劣ノ五失アルコトヲ云ヘ、量ノ中尚ホ聖言 śruti-vachana ヲ存セリ、

第二、厭世觀……印度ノ哲学派ハ如何ナル哲学派モ皆此世界ハ生滅常ナク、苦痛已ムコトナク、悲哀困苦ノ境界ナルガ故ニ、一層優劣ニシテ永遠ニ至樂ナル境界ヲ求メントセリ、此點ニ於テハ佛教派モ何等ノ差違點ヲ有セズ、獨リ快樂主義ヲ主張スル旣婆迦派ノミ、差々例外ニ屬スルガ如ク見ユ、然レモ唯々表面上ノ事ニ過ギズ、支那ニテ揚子ノ快樂主義ガ老子ノ厭世觀ヨリ来タレルガ如ク、旣婆迦派ノ快樂主義モ、本ト此世界ヲ以テ福祉ヲ以テ充タサレタル極樂界トスルニアラズ、此世界ハ實ニ悲哀困苦ノ世界ニシテ未來ノ快樂モ亦必ズシモ預期シ難シトスルガ故ニ出来得ベキ丈快樂ヲ得ントスルナリ、印度〔當時〕ノ古詩ニ云ハズヤ、「汝有ニ生命一時、起居何快活、死氣所ニ襲來、何人遂得レ

脱、倏忽歸ニ幽冥^一、一任燒ニ骸骨^二、欲^レ還不^レ能^レ還、影寒北邙月^三」（摩施婆ノ哲学義論・
斫婆迦派ノ下ニ出ヅ）ト、是故ニ斫婆迦派ハ快樂主義ヲ取ル、故ニ其快樂主義ハ厭世觀ニ本ヅクモノナルヲ知ルナリ、

第三、因果應報……如何ナル哲学派モ、佛教派ノ如ク、因果應報ノ理法ヲ認識シ、善ナル行為ハ善ナル果報ヲ来タシ、惡ナル行為ハ惡ナル果報ヲ来タストセリ、因果應報ノ理法ハ実ニ印度各哲学派ノ倫理ノ由リテ立ツ所ト謂フベキナリ、

第四、精神不滅……精神ノ如何ナルカニ就イテハ異説アリ、（第十四章第二項顯婆
派ノ哲学ヲ參看セヨ）然レ氏精神ノ常住不滅ナルコニ就イテハ各哲学派皆一致セルニ似タリ、獨リ斫婆迦派ノミハ例外ナリ、佛教派ハ基督教徒ノ信ズル如キ、精神不滅ハ是定セザレ氏、亦甚ダ精神不滅ニ類スルノ觀念アリ、（此事ハ尚ホ佛敎
ノ下ニ詳論ス）蓋シ因果應報ト精神不滅ハ連結シテ分離スベカラザルモノナリ、何ントナレバ、因果應報ハ精神不滅ヲ是定スルニアラザレバ合理的ニ説明スルヲ得ザレバナリ、

第五、物質不滅……吾人ノ研究ノ結果ニ據レバ、一切ノ印度哲学派ハ物質不滅ヲ假定スルモノト云フヲ得ベシ、吠檀多派ノ如キハ成就壞空ノ説アリト雖モ、物質ヲ以テ虛無ヨリ生ズトスルニアラズ、世界ノ生ズルヤ梵天ヨリ流出シ、世界ノ滅スルヤ、梵天ニ還没ス、其生ズルハ眞ニ生ズルニアラズシテ梵天自ラ展開セルナリ、其滅スルハ眞ニ滅スルニアラズシテ梵天ノ中ニ理没スルナリ、故ニ基督教徒ノ信ズル如キ造化ハ印度哲学派ノ未ダ曾テ夢想セザル所ナリ、第六、輪廻……印度ノ哲学派ハ皆輪廻轉生ノ觀念ヲ有シ、一切生物ノ精神ハ命終ノ後、各種ノ物体ニ移住ストセリ、即チ現在ニ於テ善ナルモノハ未來ニ於テ善生ヲ受ケ、現在ニ於テ惡ナルモノハ未來ニ於テ惡生ヲ受ケ、此ノ如ク無限ニ流轉シテ自己ノナセル作法ノ結果ヲ享有セザルヲ得ストセリ、輪廻ノ觀念ハ多少学派ニ從ヒテ同ジカラザルモノアリト雖モ、全ク輪廻ノ觀念ヲ有セザルモノハ斫婆迦派ヲ除クノ外ハ一モ之レアルコナシト謂フヲ得ベシ、

第七、解脱……世界ノ真相ヲ悟了シテ世間上ノ迷妄ヲ打破シ去リ、此レニヨリテ輪廻轉生ヲ脱却スル、之レヲ解脱トス、印度ノ哲学派ハ皆解脱ヲ以テ人生究竟ノ目途トナス、然レ其名称ハ必ズシモ一定セズ、吠檀多派ニテハ之レヲ木叉 Moksha ト云フ、佛教派ニテハ之レヲ毗木叉 Vinoksha ト云ヒ、尼夜耶派ニテハ之レヲ阿波婆迦 Apavarga ト云ヒ、其他或ハ之レヲ目底 Mukti ト云ヒ、或ハ之レヲ伽婆利耶謨 Kaivalyam ト云ヒ、或ハ又之レヲ尼濕黎耶婆謨 Nishreyasam ト云フ、皆同ジク世間上ノ繫縛ヲ離脱スルヲ謂フナリ、彼等ハ皆認「智」識ヲ以テ解脱ニ到達スルノ方便トセリ、

第八、涅槃……印度ニアリテハ如何ナル哲学派モ解脱ト共ニ涅槃ヲ云ハザルナシ、提婆ノ外道小乘涅槃論ニ外道二十派ヲ擧ゲテ其涅槃ノ説ノ如何ニ相違セルカヲ論ゼリ、涅槃ノ觀念ハ学派ニ從ヒテ異ナリト雖モ、其之レヲ以テ円満幸福 Summa bonum トスルニ至リテハ一ナリ、涅槃ハ輪廻ノ境界ヲ解脱シテ彼岸ニ到達シ得タル状態ナリ、故ニ解脱スレバ即チ直チニ涅槃ナリ、出世間上ノ境界ナリ、此現象世界ヲ去リテ彼實在世界ニ入ル、是レ印度哲学派ノ均シク期スル所ナリ、

右ニ列挙セル八種ノ共通點ノ外尚ホ著明ナル幾多ノ傾向ナキニアラズ、今其一ニヲ挙ゲンニ、印度哲学ハ概シテ之レヲ云ヘバ、心靈的ノ傾向ヲ有シテ西洋哲学ノ有スルガ如キ客觀上ノ事實ヲ探究スルノ精神ヲ缺ク、換言スレバ、此世界ニ関スル「ハ認識」對象トシテ重大ノ價值ヲ付与セズ、偏ニ沙漠タル出世間上ノ理想界ニ彷徨スルモノナリ、又斫婆迦派ノ如キ「一二」ノ学派ヲ除クノ外ハ大抵禁慾主義ノ一方ニ偏セリ、克己修徳ヲ講究スルモノハ自然此ノ如キ傾向ヲ有スベシト雖モ、印度ノ禁慾主義ニ至リテハ其慘烈峻酷ナル、普通人情ノ外ニ出デタリ、之レヲ要スルニ、印度哲学ハ其組織ノ種類、僅少ナラザルニ拘ハラズ、幾多ノ共通點ヲ有スルガ為メニ、多少單調ノ感ナキニアラズ、

然レ其奇異ナル想像ニ富ムガ如キ、其煩瑣ナル辨論ニ長ズルガ如キ、其幽微ヲ析キ、深奥ヲ穿ツノ伎倆アルガ如キ、其絶大ノ理想界ヲ構造シテ心ヲ塵俗以外ニ遊バシムルガ如キ、深ク吾人ノ興味ヲ惹起シ、為メニ單調ノ感ニ打勝チテ尚ホ餘リアリ、印度哲学ハ之レヲ研究スルモノ、勞動ニ報ユルニ富豊ナル結果ヲ以テスルニ足ルモノナリ、印度哲学ノ特質ハ支那及ビ西洋ノ哲学ト同ジカラズ、支那哲学ハ主トシテ吾人ハ如何様ニ行動スベキカラ尋念セリ、西洋哲学ハ主トシテ吾人及ビ吾人ノ住スル此世界ハ何物ナルヤヲ探究セリ、然ルニ印度哲学ハ主トシテ吾人ハ如何ニシテ此世界ノ苦痛ヲ脱却シ得ベキカラ考察セリ、印度哲学中專ラ智識の探究ヲナスモノモアリト雖モ、最大部分ハ宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルヲハ如何ナル人モ之レヲ否定スルヲ得ズ、其宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルモノハ智識ヲ以テ單ニ宗教上ノ目的ニ到達スルノ方便トセリ、哲学ハ智識ニヨリテ起リ、宗教ハ意志ニヨリテ起ル、換言スレバ、哲学ハ事物ニ就イテ純粹ナル智識の探究ヲナスモノニテ宗教ハ我精神ヲ未來ニ救ハントノ欲望ヲ充タスモノナリ、此兩者ハ實際ニ於テ嚴重ニ區別シ、絶エテ相互ニ交錯セザラシムルヲ幾ンド出来得ベキニアラザルモ、亦其区域ヲ異ニシテ併行スルヲ出来得ベカラザルニアラズ、西洋実ニ此ノ如キの例ヲ示セリ、然ルニ印度哲学ニ就イテ之レヲ見ルニ、婆羅門教ノ如キ佛教ノ如キ闍伊那派ノ如キ皆哲学ト宗教ヲ合一シテ之レヲ有セリ、獨リ西洋ノ哲学〔ノミ〕ヲ以テ一切哲学ノ標準トナスモノハ印度哲学ノ多クハ宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルヲ非難シテ之レガ為メニ其哲学上ノ價值ヲ減殺スルモノ、如クニ論ズレト、是レ実ニ深く考察セザルヨリ起ル謬見ナリ、印度哲学中宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルモノアルハ甚ダ興味ス〔ア〕ルヲナリ、哲学ハ智識の探究ヲ主トスレト、其智識の探究ハ何故ニ之レヲナスカ、是レ他ナシ、吾人自ラノ精神ノ何物タルカヲ疑ヒ、吾人ノ住スル此世界ノ何物タルカヲ疑ヒ、又如何ナル實在アリテ一切現象ノ根底タルカヲ疑ヒ、百般ノ疑ハ吾人ヲ驅リテ智識の探究ヲナサシム、若シ吾人ガ何等ノ満足スベキ解釈ヲ得ザルハ、吾人ハ如何ニシテ安心立

命ノ地ヲ得ベキカ、嚴肅ナル思想家ニシテ一タビ百般ノ疑ヲ起シタル以上ハ眞理ヲ究明シ、迷妄ヲ打破シ、安心立命ノ地ヲ得ルニアラザレバ已ムザルベシ、故ニ如何ナル哲学モ單ニ智識的探究ニ終ハルベキモノニアラズ、智識的探究ハ畢竟安心立命ヲ以テ終局ノ目的トナスモノナリ、故ニ安心立命ノ地ヲ求ムルヲ以テ宗教ノ性質トセバ婆羅門教及ビ佛教ノ如ク哲学ト宗教トヲ兼有シ、哲学ヲ以テ基礎トシ、其主義ヲ宗教上ニ應用スルヲ亦甚ダ便利ナラズヤ、然レモ安心立命ノ地ヲ求ムルヲハ固ヨリ哲学ノ範圍内ノ事トスルヲ得ベク、必ズシモ宗教上ノ性質トシテ哲学ヨリ分離スルノ理由ナルニアラズ、獨リ神怪不思議及ビ各種ノ儀式等ハ宗教上ノ性質トシテ哲学ヨリ分離スベキモノナリ、

〔付〕 夏目漱石の聴講ノート断片

一 はじめに

漱石は次の俳句を詠んでいる。

永き日や韋陀を講ずる博士あり

(井の哲の事)

この俳句は明治二十九年一月二十八日に松山から正岡子規に宛てて送った句稿の中にある一句である。⁽¹⁾「井の哲」は、当時、井上哲次郎のことを学生達がそう呼んでいた。韋陀 (ヴェーダ Veda) はインドにおいて最も神聖とされる文献であり、井上哲次郎がヴェーダの講義をしたと言えば、考えられるのはインド哲学史の一貫として講義したということであろう。ヴェーダそのものについて専門の学術的研究があつた時代には考えられないからで

ある。われわれは井上哲次郎の「印度哲学史」の講義の一部については、この草稿によって知ることができたが、この草稿にはヴェーダそのものに関する講義は含まれていない。そしてその第十五章の冒頭に「吾人は優波尼沙土以来印度ニ起レル各哲学派ノ起源主義及ビ沿革等ヲ研究セリ」(本稿六五頁参照)と述べている。通史的にはヴェーダから講義を開始するのが普通であるから、この記述はこの講義が必ずしもヴェーダに論及していないことを意味するのではなくて、「哲学」をヴェーダから区別して、ここではそのうちの「哲学」の学派だけについて言及しているのであろう。

ところで、ヴェーダに関する講義の漱石の聴講ノートが発見された。東北大学図書館に漱石文庫のあることは周知のところであるが、一九九〇年一〇月、東北大学文学部に連続講義に招かれた際に、インド哲学仏教史研究室の伊藤道哉助手の案内で漱石文庫を訪れることが出来た。もとより調査する意思も時間的余裕もまったくなかったけれども、折角の機会でもあったので、漱石文庫を見学させて頂いて、漱石の旧蔵書に対面出来ればよいという、それだけの気持ちであった。漱石文庫を収蔵する付属図書館新館はこの年の六月に増築が完成したばかりとのことで、立派な設備が調っていた。漱石文庫はその新館の中に広々としたスペースを占め、しかも厳重に管理されていた。

漱石文庫に滞在したのは十分程度であったが、漱石の学生時代の未整理断片のファイルが眼についたので開いて見た。そこにヴェーダに関するノートを記した二枚の紙を発見した。これは『漱石全集』に未収録であって、これまでも紹介されたことがない。図書館の調査推定では、この断片は、紙質から明治二十六年頃のものだとされている。年数については若干の変動もありえようが、この頃に漱石がこのようなノートを作る機会としては、井上哲次郎の講義以外には考えられない。実際にあの俳句を詠んでいることから、そう考えて問題はないであろう。俳句からも、漱石が講義を聞いていたと考えるのが自然であるけれども、わたくし自身としては、それだけでは実際に漱石が聴講し

ていたか否かは確実ではないであろうと、慎重を期していた。しかしこの断片の発見によって、漱石が井上哲次郎の講義を聞いていたことが確実になったと言えるであろう。

その後、伊藤氏の斡旋で東北大学付属図書館においてこの断片の写真複写を作成して送って頂くとともに、翻刻掲載について許可された。ここに伊藤氏ならびに東北大学関係諸氏に心からの感謝の意を表する。

断片は二葉からなり、一葉は表裏に書かれ、他の一葉は表のみ書かれていて、裏は空白である。内容的にみてこの二葉は連続している。計三面に順次番号を付して翻刻する。

文章の句切りは明確に示されていないので、一字明けによってこれを表示することにした。行立ては原文の通りとした。また括弧「」内は編者が補足したが(その他については「凡例」を参照)、聴講ノートであるために、文章としては不完全な点もあるが、そのままとした。

翻刻にあたって、石塚晴通教授の懇切な御教示をえたことを記して、謝意を表したい。ただし責任はすべて編者の負うものである。

この断片についても、本稿の第二篇において検討を加えることとした。

(一)『漱石全集』第十二巻、五六三頁。小宮豊隆『夏目漱石』一、二〇二頁参照。

二 漱石の断片

(一) 韋陀、吠陀、伏陀、達陀、薛陀、皮陀、毘陀、

韓陀、維陀、圍陀、等、^ハ〔漱石自身の筆跡^試〕の訳なり

韋陀ノ解 茲ニ智論ト云 之ヲ学ベハ智ヲ生ズ 即チ邪

智論ト 韋陀ヲ智ト約スルハ可ナリ 智論ト云フハ不可ナ

リ 邪智ト云フニ至ツテハ益不可ナリ 又唯識論ニ 明論

ハ先ニ韋陀論ト云ヒ 今吠陀論ト云 吠陀ハ明ナリ 諸

ノ實事ヲ明ニスル故ニ、韋陀ヲ明ト云フハ可ナレト 論ト

云フハ不可ナリ 一切經本義ニ四吠陀之ヲ四明論ト

云フ 又四〔吠〕陀ハ是明解ノ義トアリ 吠陀ニ四種アリ

故ニ四吠陀ト云フ 第一梨俱吠陀 二僭馬韋陀

三耶柔縷韋陀 四阿他縷婆韋陀 是ナリ

梨俱ハ賛辭ナリ スーリヤ即チ太陽ノ神 アグニ

ー火ノ神 ミトラー（矢張り太陽ノ神） ヴワルナー（水

ノ神） マルツ（暴風雨ノ神） インドラ（^イ等ノ諸神ヲ

賛美セル歌ナリ 此中ニ神ヲ賛美セザル者モアリ

梨俱韋陀ハ十卷ニ分ル 其中ニ千二十八篇

ノ賛頌歌ナリ^イ 之ヲ書キシ者ハ「リシユイ」ナリ（リシユイ）

ノ中有名ナ者ヲ挙グレバ沢山アリ 梨俱韋陀ハ

(二) 一時ニ出来タル者ニアラズ 数百年ノ歲月ヲ閲シテ成レル者ナリ 之ヲ聚メテ「サンシタ」ト云フ

僣馬吠陀ノ僣馬ハ歌ト云フ字意ナリ 但語原ハ

詳カナラズ 僣馬韋陀ノ「サンシタ」ハ二ニ分レ *Ārcika*

Stanthika ト云フ 是儀式杯ノ時ニ歌ハザルベカラザ

ル必要ヨリ起レリ 梨俱韋陀中ノ賛歌沢山アルヲ

以テ見レバ 梨俱ヨリ後レタルヲ見ルベシ 僣馬韋陀

ノ賛歌ハ「ソーマー」ノ儀式ノ時のみニ用ゆ 「ソーマー」トハ

asclepias acida ト「云フ」草ノ汁ノ *extract* ナリ 之ヲ

飲メバ酔フ 之ニ酔フ時ハ心平常ト異ナリテ 平時爲し

能ハザル事ヲ仕遂る故 之ヲ神草と心得 遂ニ之を

神トナセリ 此神ノ儀式ノ時ニ歌フ歌ヲ僣馬吠^x

韋陀ト云フナリ 之ハ他ノ韋陀ノ事ヲ知ルニ必要

ナレ氏「ホイット子」ノ説ニハ 尤モ面白クナキ者

ナリト云 耶柔縷韋陀ヲ分ツテ二ト黒白^x

ノ二トナス *Vājasaney-Sanchitā*,

Taittiriya Sanchitā

〔三〕 耶柔縷韋陀サンシタハ一切ノ儀式ニ関スル賛歌ヲ含ム

阿他縷婆トハ人ノ名ナリ 之ハ四韋陀中ノ尤モ新ラシキ者ナリ 之ヲ傳フル者之ヲ古クセン爲メ 阿他縷婆氏ノ韋陀ト云ヒシナリ 此中ニハ怪力ヲ防グ定式又ハ種々ノ害ヲ防ク定式 平常ノ吉凶禍福ニ関スル祈禱等ヲ含ム 四ベダノ尤モ有趣ナル者なり

梨俱韋陀ハ四中最モ古ク 他ノベダノ引用スル所ナリ

印度デハ四種ノ坊主儀式ヲ実行ス 第一ハ事務僧 第二ハ

唱歌僧 第三ハ復讀僧 第四ハ監督僧ナリ

事務僧ハ事務ヲ取扱ふ中ニ低声ニテ賛歌ヲ

歌フ(ヤ柔縷ベーダ)中ニアリ 唱歌僧ヲ「サー

マベーダ」復讀僧ノハ(梨俱ベーダ)ノ賛歌

ヲ歌フ